

治罪法候旨

刑法講解

其故障ヲ受理ス可キ者ト  
判決シタル時ハ本會又ハ

次會ニ於テ通常ノ規則ニ  
從ヒ更ニ裁判ヲ為ス可シ

第四百九條 關帝裁判ヲ為  
シタル重罪裁判所附屬ノ後ハ

其地ヲ管轄スル控訴裁判所  
ニ故障ノ申立ヲ為ス可シ

控訴裁判所ニ於テ其故障  
ヲ受理ス可キ者ト判決シ

タル時ハ通常ノ規則ニ從  
ヒ更ニ重罪裁判所ノ裁判

ヲ受ク可キノ旨渡ヲ為ス  
可シ

第五編 大審院ノ職務  
第一章 上告

第四百十條 檢察官及ヒ被  
告人ハ豫審又ハ公判ノ言

渡ニ對シ左ノ場合ニ於テ  
上告ヲ為ス可キヲ得

一 法律ニ背キ忌避ノ申  
立ヲ認可セザル時

二 裁判所ノ構成規則ニ  
背キタル時

ノニ其投票ヲ偽造シ又ハ其數ヲ増減シタル  
時ハ其罪刑條ヨリ更ニ重シ因テ此刑ニ処ス

第二百三十六條 調書ヲ造リ投票ノ結局ヲ報告スル者其數ヲ増減  
シ其他作偽ノ所為アル時ハ一年以上五年以下ノ輕禁錮ニ處シ五

圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

ヲ造リ投票ノ者若シ其數ヲ知ル者ガ他人ノ為ニ投票ノ員數  
ヲ増減シ其外作偽ノ所為ヲ以テ人名ヲ取捨ナドスル者ノ罪ヲ云

第五章 凡テ六節ノ健康ヲ害スル罪

ノ字ハスコヤカニヤスジト訓ムナリ一般ノ人民ニ對シ之  
ヲ害スル罪ヲ云フ一人又ハ數人ニ對シ健康ヲ害スル罪ハ

第三編ニ之  
ヲ載セタリ

第一節 阿片烟ニ關スル罪

ナシ故ニ此章ノ始ニ之ヲ掲ゲリ此節ニ掲クテ所定ノ條ハ  
ニ用ユルヲ云フ藥用ニスル阿片ヲ云フニアラス其製法異ナル者

第二百三十七條 阿片烟ヲ輸入シ及ヒ製造シ又ハ之ヲ販賣シタル

者ハ有期徒刑ニ處ス

阿片烟ハ國法ノ嚴シキ罰則ナリ然ル  
レモ私カニ可定ラ外國ヨリ買入又



三 法律ニ背キ管轄違反又ハ管轄ナリトノ言渡若クハ管轄ニ非サル裁判ヲニ事件ヲ移スノ言渡アルタル時

四 法律ニ於テ無効ノ記載アル規則ニ背キタル時又ハ無効ノ記載ナキ規則ニ背キタルニ因リ異議ノ申立アリタル場合ニ於テ之ヲ認可セサル時

五 法律ニ背キ公訴ヲ受理シ又ハ受理セサル時

六 法律ニ定メタル場合ニ於テ檢察官ノ意見ヲ聽カサル時

七 裁判所ニ於テ請求ヲ受ケタル事件ニ付キ判決ヲ爲サス又ハ職權ヲ以テ判決スルノ得ヘキ場合ヲ除キノ外請求ヲ受ケサル

ハ内國ニテ之ヲ製造シ或ハ之ヲ賣買シタル者ハ一般ノ罰ヲ賦ス已レ一人ノ利益ニ取ルニアリ其犯人ノ罰ヲ賦ニセザレハ其罰ニ是ヲ有期徒刑ニ至ラン故

第二百三十八條 阿片烟ヲ吸食スルノ器具ヲ輸入シ及ビ製造シ又ハ之ヲ販賣シタル者ハ輕懲役ニ處ス

第二百三十九條 税關官吏情ヲ知テ阿片烟及ビ其器具ヲ輸入セシメタル者ハ前二條ノ刑ニ照シ各一等ヲ加フ

第二百四十條 阿片烟ヲ吸食スル爲メ房屋ヲ給與シテ利ヲ圖ル者ハ輕懲役ニ處ス

阿片烟ヲ吸食スルハ大抵癮所ニ於テ之ヲ



事件ニ付キ判決ヲ為シタル時

八 裁判官言渡ヲ公行セス

又ハ傍聴ヲ禁スルノ言渡ナクシテ評問及ヒ辯論ヲ公行セザル時

九 事實及ヒ法律ニ依リ言渡ノ理由ヲ付セス

又ハ其理由ノ齟齬アル時

十 職權ノ濫用アル時

十一 越權ノ濫用アル時

第四百十一條 免訴又ハ無罪ノ言渡アリタル場合ニ於テハ被告人ノ利益ノ為メ定メタル規則ニ背キタルハ又ハ犯罪ノ場ヲニ因リ管轄權アリト雖モ上告ヲ為スヲ得ス

第四百十二條 民事原告人被告人及ヒ民事擔當人ハ私ニ評問スル豫審又ハ公判ノ言渡ニ對シテ第四百十

條ニ定メタル理由ニ付キ上告ヲ為スヲ得

第四百十三條 上告ノ封手人ハ大審院ノ判決アルマテ何時ニテモ附帶ノ上告ヲ為スヲ得

大審院檢事長モ亦附帶ノ上告ヲ為スヲ得

第四百十四條 上告ノ期限ハ三日ナリトス但豫審ニ付テハ言渡書ノ送達アリタルヨリ起算シ公判ニ付テハ言渡アリタルヨリ起算ス

第四百十五條 豫審又ハ公判ノ言渡ニ對シ上告アリタル時ハ勾留保釋費付釋放及ヒ赦免ノ言渡ヲ除クノ外其執行ヲ停止ス

第四百十六條 上告ヲ為サントスル者ハ其申立書ヲ原裁判所ノ書記局ニ差出ス可シ

上告ノ申立書ハ其申立ア

開法言角  
喫食ノ厨屋ヲ設ケテ之ヲ貸シ與ヘテ利益ヲ食ボル者ハ器具ヲ買入又ハ製造スル者ト等シク懲罰ニ処ス

人ヲ誘誘シテ阿片烟ヲ吸食セシメタル者亦同シ

食セシメタル者ハ懲罰ノ為メニスルアリ又或レニスルモアリ何レニモ其人ノ喫食シタル時ハ其數メテ喫食セシメタル者ヲ懲罰ニ處ス

第四百十一條 阿片烟ヲ吸食シタル者ハ二年以上三年以下ノ重禁錮ニ處ス

阿片烟ヲ吸食シタル者ハ二年以上三年以下ノ重禁錮ニ處ス

阿片烟ヲ吸食シタル者ハ二年以上三年以下ノ重禁錮ニ處ス

阿片烟ヲ吸食シタル者ハ二年以上三年以下ノ重禁錮ニ處ス

阿片烟ヲ吸食シタル者ハ二年以上三年以下ノ重禁錮ニ處ス

阿片烟ヲ吸食シタル者ハ二年以上三年以下ノ重禁錮ニ處ス

阿片烟ヲ吸食シタル者ハ二年以上三年以下ノ重禁錮ニ處ス

阿片烟ヲ吸食シタル者ハ二年以上三年以下ノ重禁錮ニ處ス

阿片烟ヲ吸食シタル者ハ二年以上三年以下ノ重禁錮ニ處ス

阿片烟ヲ吸食シタル者ハ二年以上三年以下ノ重禁錮ニ處ス

阿片烟ヲ吸食シタル者ハ二年以上三年以下ノ重禁錮ニ處ス

阿片烟ヲ吸食シタル者ハ二年以上三年以下ノ重禁錮ニ處ス

阿片烟ヲ吸食シタル者ハ二年以上三年以下ノ重禁錮ニ處ス

阿片烟ヲ吸食シタル者ハ二年以上三年以下ノ重禁錮ニ處ス

阿片烟ヲ吸食シタル者ハ二年以上三年以下ノ重禁錮ニ處ス

阿片烟ヲ吸食シタル者ハ二年以上三年以下ノ重禁錮ニ處ス

阿片烟ヲ吸食シタル者ハ二年以上三年以下ノ重禁錮ニ處ス

阿片烟ヲ吸食シタル者ハ二年以上三年以下ノ重禁錮ニ處ス

阿片烟ヲ吸食シタル者ハ二年以上三年以下ノ重禁錮ニ處ス

阿片烟ヲ吸食シタル者ハ二年以上三年以下ノ重禁錮ニ處ス

阿片烟ヲ吸食シタル者ハ二年以上三年以下ノ重禁錮ニ處ス

阿片烟ヲ吸食シタル者ハ二年以上三年以下ノ重禁錮ニ處ス

阿片烟ヲ吸食シタル者ハ二年以上三年以下ノ重禁錮ニ處ス

阿片烟ヲ吸食シタル者ハ二年以上三年以下ノ重禁錮ニ處ス

阿片烟ヲ吸食シタル者ハ二年以上三年以下ノ重禁錮ニ處ス

阿片烟ヲ吸食シタル者ハ二年以上三年以下ノ重禁錮ニ處ス

阿片烟ヲ吸食シタル者ハ二年以上三年以下ノ重禁錮ニ處ス

阿片烟ヲ吸食シタル者ハ二年以上三年以下ノ重禁錮ニ處ス

阿片烟ヲ吸食シタル者ハ二年以上三年以下ノ重禁錮ニ處ス

阿片烟ヲ吸食シタル者ハ二年以上三年以下ノ重禁錮ニ處ス

阿片烟ヲ吸食シタル者ハ二年以上三年以下ノ重禁錮ニ處ス

阿片烟ヲ吸食シタル者ハ二年以上三年以下ノ重禁錮ニ處ス

阿片烟ヲ吸食シタル者ハ二年以上三年以下ノ重禁錮ニ處ス

阿片烟ヲ吸食シタル者ハ二年以上三年以下ノ重禁錮ニ處ス

阿片烟ヲ吸食シタル者ハ二年以上三年以下ノ重禁錮ニ處ス

阿片烟ヲ吸食シタル者ハ二年以上三年以下ノ重禁錮ニ處ス

阿片烟ヲ吸食シタル者ハ二年以上三年以下ノ重禁錮ニ處ス

阿片烟ヲ吸食シタル者ハ二年以上三年以下ノ重禁錮ニ處ス

阿片烟ヲ吸食シタル者ハ二年以上三年以下ノ重禁錮ニ處ス



リタルヨリ二十四時内ニ  
書記ヨリ之ヲ對手人ニ送  
達ス可シ

第四百十七條 上告申立人  
ハ其申立ヲ為シタルヨリ  
五日內ニ趣意書ヲ原裁判  
所ノ書記局ニ差出ス可シ

書記ハ上告趣意書ヲ受取  
リタルヨリ二十四時内ニ  
之ヲ對手人ニ送達ス可シ

第四百十八條 對手人ハ上  
告趣意書ヲ受取リタルヨ  
リ五日內ニ答辯書ヲ原裁  
判所ノ書記局ニ差出ス可  
シ

書記ハ其答辯書ヲ受取り  
タルヨリ二十四時内ニ之  
ヲ上告申立人ニ送達ス可  
シ

第四百十九條 檢察官ヨリ  
差出ス可キ上告趣意書又  
ハ答辯書ハ二通ヲ作り一  
通ヲ大審院ニ差出シ一通  
ヲ對手人ニ送達ス可シ

第四百二十條 書記ハ前條  
條ニ定メタル期限經過シ  
タル後速ニ訴訟書類及ヒ  
上告書類ヲ其裁判所ノ檢  
察官ニ差出ス可シ

檢察官ハ其書類ヲ五日內  
ニ大審院檢察官長ニ差出シ  
且意見アル時ハ之ヲ添フ  
可シ檢察官長ハ上告事件ヲ  
刑事局ノ簿冊ニ登記ス可  
キヲ院長ニ請求スヘシ

第四百二十一條 上告申立  
人及ヒ對手人ハ代言人ヲ  
差出ス可シ

重罪ノ刑ノ言渡ヲ受ケタ  
ル者上告ヲ為シ又ハ檢察  
官ヨリ重罪ノ刑ニ決ル可  
キ者トシテ上告ヲ為シタ  
ル場合ニ於テ刑ノ言渡ヲ  
受ケタル者自ラ代言人ヲ

第四百二十二條 上告申立  
人及ヒ對手人ハ代言人ヲ  
差出ス可シ

重罪ノ刑ノ言渡ヲ受ケタ  
ル者上告ヲ為シ又ハ檢察  
官ヨリ重罪ノ刑ニ決ル可  
キ者トシテ上告ヲ為シタ  
ル場合ニ於テ刑ノ言渡ヲ  
受ケタル者自ラ代言人ヲ

第四百二十三條 上告申立  
人及ヒ對手人ハ代言人ヲ  
差出ス可シ

重罪ノ刑ノ言渡ヲ受ケタ  
ル者上告ヲ為シ又ハ檢察  
官ヨリ重罪ノ刑ニ決ル可  
キ者トシテ上告ヲ為シタ  
ル場合ニ於テ刑ノ言渡ヲ  
受ケタル者自ラ代言人ヲ

ノ人ニ病ヒニ罪ラシメ又ハ死ニ至ラシメ  
二百九十九條以下ノ刑ヲ科スル者ハ第  
三節

第四百十六條 傳染病豫防ノ為メ設ケタル規則ニ違背シテ入港  
ノ船舶ヨリ上陸シ又ハ物品ヲ陸地ニ運搬シタル者ハ一月以上一  
年以下ノ輕禁錮ニ處シ又ハ二十圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第四百十七條 船長自カラ前條ノ罪ヲ犯シ又ハ人ノ犯スヲ知  
テ制セザル者ハ前條ノ刑ニ一等ヲ加フ

第四百十八條 傳染病流行ノ際豫防規則ニ違背シテ流行地方ヨ  
リ他處ニ出タル者ハ十五日以上六月以下ノ輕禁錮又ハ十圓以上  
百圓以下ノ罰金ニ處ス

第四百十九條 傳染病流行ノ際豫防規則ニ違背シテ流行地方ヨ  
リ他處ニ出タル者ハ十五日以上六月以下ノ輕禁錮又ハ十圓以上  
百圓以下ノ罰金ニ處ス

第四百二十條 傳染病流行ノ際豫防規則ニ違背シテ流行地方ヨ  
リ他處ニ出タル者ハ十五日以上六月以下ノ輕禁錮又ハ十圓以上  
百圓以下ノ罰金ニ處ス

第四百二十一條 傳染病流行ノ際豫防規則ニ違背シテ流行地方ヨ  
リ他處ニ出タル者ハ十五日以上六月以下ノ輕禁錮又ハ十圓以上  
百圓以下ノ罰金ニ處ス

第四百二十二條 傳染病流行ノ際豫防規則ニ違背シテ流行地方ヨ  
リ他處ニ出タル者ハ十五日以上六月以下ノ輕禁錮又ハ十圓以上  
百圓以下ノ罰金ニ處ス

第四百二十三條 傳染病流行ノ際豫防規則ニ違背シテ流行地方ヨ  
リ他處ニ出タル者ハ十五日以上六月以下ノ輕禁錮又ハ十圓以上  
百圓以下ノ罰金ニ處ス

第四百二十四條 傳染病流行ノ際豫防規則ニ違背シテ流行地方ヨ  
リ他處ニ出タル者ハ十五日以上六月以下ノ輕禁錮又ハ十圓以上  
百圓以下ノ罰金ニ處ス



治罪法條言

刑法詳解

選任セサル時ハ院長ノ職權ヲ以テ其院所屬ノ代官人中ヨリ之ヲ選任ス可シ

第四百二十二條 院長ハ刑事局判事中心ニテ專任判事一名ヲ命ス可シ

專任判事ハ一切ノ書類ヲ檢閲シ其報告書ハ作ル可シ但自己ノ意見ヲ付ス可カラス

第四百二十三條 上告申立人及ヒ對手人ハ專任判事ノ報告書ヲ差出スマテハ大審院書記局ヲ經由シテ其趣意ヲ擴張ス可キ聲明書ヲ差出スヲ得

專任判事報告書ヲ差出シタル後聲明書ヲ差出シタル時ハ之ヲ其報告書ニ添フ可シ

第四百二十四條 書記ハ開廷ヨリ三日前ニ開廷ノ日時ヲ上告申立人及ヒ對手

人ノ代官人ニ告知ス可シ

第四百二十五條 開廷ノ日ニハ公庭ニ於テ專任判事其報告書ヲ朗読ス可シ

檢事長及ヒ代官人ハ各其趣意ヲ辨明ス可シ

私訴ノ上告ニ付テハ檢事長最終ニ其意見ヲ陳述ス可シ

第四百二十六條 上告申立人又ハ對手人ヨリ代官人ヲ差出サ、ル時ハ其趣意ニテ判決ヲ為ス可シ

第四百二十七條 大審院ニ於テ上告ヲ理由ナシトスル時ハ之ヲ棄却スルノ旨ヲ為ス可シ

第四百二十八條 大審院ニ於テ豫審又ハ公判ノ旨渡ニ封スル上告ニ付キ破毀ノ原由アリトスル時ハ其旨渡ノ全部ヲ破毀シ其事件ヲ他ノ裁判所ニ移スノ旨渡ヲ為ス可シ但後ノ數

第四節

危害品及ヒ健康ヲ害ス可キ物品製造ノ規

則ニ附スル罪 危害品トハ統制法ニ依リて製造ノ規程ヲ定メテ之ヲ製造スルモノニシテ其規程ニ違反シテ製造スルモノヲ指ス可カラザル

第二百五十條 官許ヲ得ズシテ危害ヲ生ズ可キ物品ノ製造所ヲ創設シタル者ハ二十圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處ス

設シタル者ハ二十圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處ス

若シ健康ヲ害ス可キ物品ノ製造所ヲ創設シタル者ハ十日以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

雖モ危害ヲ豫防シ健康ヲ保護スル規則ニ違背シタル者ハ前條ノ例ニ照シ各一等ヲ減ス

第二百五十一條 官許ヲ得テ前條ニ記載シタル製造所ヲ創設スト

雖モ危害ヲ豫防シ健康ヲ保護スル規則ニ違背シタル者ハ前條ノ例ニ照シ各一等ヲ減ス

第二百五十二條 前二條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ疾病死傷ニ致シタル時ハ過失殺傷ノ各本條ニ照シ重キニ從テ處斷ス

時ハ過失殺傷ノ各本條ニ照シ重キニ從テ處斷ス

第五節 健康ヲ害ス可キ飲食物及ヒ藥劑ヲ販賣スル罪

健康ヲ害ス可キ飲食物及ヒ藥劑ヲ販賣スル罪

ル者何レモ健康ニ害アルヲ以テ其為ノ此一節ヲ設ケリ



刑罰法

刑罰法

條ニ記載シタル場合ハ此  
限ニ在ラス

第二百五十三條 入ノ健康ヲ害ス可キ物品ヲ飲食物ニ混和シテ販  
賣シタル者ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第四百二十九條 裁判官ハ  
誤若シハ法律ニ背キ公訴  
ヲ受理シ又ハ受理セザル

第二百五十四條 規則ニ違背シテ毒藥劇藥ヲ販賣シタル者ハ十圓  
以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第四百三十條 豫審又ハ公  
判ノ手續規則ニ背キタル  
ノアリト雖モ其後ノ手續  
ニ利害ヲ及ボサル時ハ

第二百五十五條 前二條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ疾病又ハ死ニ致シタ  
ル者ハ過失殺傷ノ各本條ニ照シ重キニ從テ處斷ス

第四百三十一條 豫審又ハ  
公判ノ言渡シ幾分ニ對シ  
上告アリタル場合ニ於テ

第六節 私ニ醫業ヲ爲ス罪  
第二百五十六條 官許ヲ得ズシテ醫業ヲ爲シタル者ハ十圓以上百  
圓以下ノ罰金ニ處ス

第四百三十二條 大審院ニ  
於テ原裁判官言渡ヲ破毀シ  
直チニ裁判官言渡ヲ爲シタ  
ル時ハ原裁判官又ハ他ノ

第四百三十三條 大審院ニ  
於テ破毀シタル事件ヲ他  
ノ裁判官ニ移スノ言渡ヲ  
爲ス可キ時ハ原裁判官ニ

第六節 風俗ヲ害スル罪  
第二百五十七條 前條ノ犯人治療ノ方法ヲ誤リ因テ人ヲ死傷ニ致  
シタル時ハ過失殺傷ノ各本條ニ照シ重キニ從テ處斷ス

第四百三十四條 法律ニ係  
ル大審院ノ判決ハ確定ノ  
者トス

第六節 風俗ヲ害スル罪  
第二百五十八條 風俗ヲ害スル罪ニシテ  
テ罰セザル刑ヲ爲シ對シ刑

第四百三十五條 法律ニ於  
テ罰セザル刑ヲ爲シ對シ刑

第四百三十六條 法律ニ於  
テ罰セザル刑ヲ爲シ對シ刑

第四百三十七條 法律ニ於  
テ罰セザル刑ヲ爲シ對シ刑

第四百三十八條 法律ニ於  
テ罰セザル刑ヲ爲シ對シ刑

第四百三十九條 法律ニ於  
テ罰セザル刑ヲ爲シ對シ刑

第四百四十條 法律ニ於  
テ罰セザル刑ヲ爲シ對シ刑

第四百四十一條 法律ニ於  
テ罰セザル刑ヲ爲シ對シ刑

第四百四十二條 法律ニ於  
テ罰セザル刑ヲ爲シ對シ刑

第四百四十三條 法律ニ於  
テ罰セザル刑ヲ爲シ對シ刑

第四百四十四條 法律ニ於  
テ罰セザル刑ヲ爲シ對シ刑

第四百四十五條 法律ニ於  
テ罰セザル刑ヲ爲シ對シ刑

第四百四十六條 法律ニ於  
テ罰セザル刑ヲ爲シ對シ刑

第四百四十七條 法律ニ於  
テ罰セザル刑ヲ爲シ對シ刑

第四百四十八條 法律ニ於  
テ罰セザル刑ヲ爲シ對シ刑

第四百四十九條 法律ニ於  
テ罰セザル刑ヲ爲シ對シ刑

第四百五十條 法律ニ於  
テ罰セザル刑ヲ爲シ對シ刑

第四百五十一條 法律ニ於  
テ罰セザル刑ヲ爲シ對シ刑

第四百五十二條 法律ニ於  
テ罰セザル刑ヲ爲シ對シ刑

第四百五十三條 法律ニ於  
テ罰セザル刑ヲ爲シ對シ刑

第六節 風俗ヲ害スル罪  
第二百五十九條 風俗ヲ害スル罪ニシテ  
テ罰セザル刑ヲ爲シ對シ刑







人ノ利益ノ為ニ之ヲ為ス  
「ヲ得但裁判確定ノ後ニ  
非サレハ之ヲ為ス」ヲ得  
ス

一 人ヲ殺シタル罪ニ付

刑ノ言渡アリタル

後其言渡ノ日ニ當リ

殺シタルト認メラ

レシ者現ニ生存シ又

六犯罪前既ニ死去シ

タルノ確證アリタル

時

二 同一ノ事件ニ付キ共

犯ニ非スシテ別ニ刑

ノ言渡ヲ受ケタル者

アリタル時

三 犯罪アル以前ニ作リ

タル公正ノ證書ヲ以

テ當時其場所ニ在ラ

サル「ヲ」證明シタル

時

四 被告人ヲ陪審シタル

罪ニ因リ刑ノ言渡ヲ

受ケタル者アリタル

時

五 公正ノ證書ヲ以テ訟

訟書類ニ偽造又ハ錯

誤アル「ヲ」證明シタ

ル時

第四百四十條 再審ノ訴ヲ

為ス「ヲ」得可キ者左ノ如

シ

一 刑ノ言渡ヲ為シタル

裁判所ノ檢察官

二 刑ノ言渡ヲ為シタル

裁判所ヲ管轄スル控

訴裁判所ノ檢察長

三 大審院檢察長但司法

卿ノ命ニ因リ又ハ職

權ヲ以テ其訴ヲ為ス

可シ

四 刑ノ言渡ヲ受ケタル

者

五 刑ノ言渡ヲ受ケタル

者死去シタル時ハ其

親屬

第四百四十一條 再審ノ訴

ハ刑ノ消滅シタルニ拘ハ

第二百六十二條

財物ヲ竊集シ富籤ヲ以テ利益ヲ僥倖スルノ業ヲ

興行シタル者ハ一月以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十

圓以下ノ罰金ヲ附加ス

者ノ罪ヲ云フ、匪黨ハ博奕トハ異ナレド人ノ心ヲ乱シ家業ヲ放棄  
シ為ノニ家産ヲ敗ルニ至テハ社會ヲ害スル同一ナリ故ニ處死ニ  
類似スルヲ以テ處  
ニ之ヲ懲罰スル也

第二百六十三條

神祠佛堂墓所其他禮拜所ニ對シ公然不敬ノ所為

ナル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

若シ説教又禮拜ヲ妨害シタル者ハ四圓以上四十圓以下ノ罰金ニ

處ス

神祠ハ神ヲ祭  
祀スル所佛堂ハ佛ヲ  
敬ム所ニシテ  
神祠佛堂ハ神ヲ祭  
祀スル所ニシテ  
神祠佛堂ハ神ヲ祭  
祀スル所ニシテ

第七章 凡テ

死屍ヲ毀棄シ及ヒ墳墓ヲ發掘スル罪

第二百六十四條 埋葬ス可キ死屍ヲ毀棄シタル者ハ一月以上一年

以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二百六十五條 墳墓ヲ發掘シテ棺槨又ハ死屍ヲ見ハシタル者ハ

二月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ三圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ

附加ス

因テ死屍ヲ毀棄シタル者ハ三月以上三年以下ノ重禁錮ニ處シ五



ラス何時ニテモ之ヲ為ス  
一ヲ得

第四百四十二條 再審ノ訴  
ヲ為サントスレ者ハ其趣  
意書ニ原裁判言渡書ノ謄  
本及ヒ謄憑書類ヲ添ヘ之  
テ原裁判所ノ書記局ニ差  
出ス可シ

原裁判所ノ檢察官ハ其書  
類ニ意見書ヲ添ヘ之ヲ大  
審院檢察長ニ差出ス可シ

原裁判所ノ檢察官及ヒ控  
訴裁判所檢察長自ラ再審  
ノ訴ヲ為サントスル時ハ  
前項ノ手續ニ從ヒ其書類  
ヲ差出ス可シ

第四百四十三條 大審院ニ於  
テハ檢察長ノ請求ニ因リ  
速ニ專任判事一名ヲシテ  
其取調ヲ為シ報告書ヲ差  
出サシム可シ

第四百四十四條 大審院ニ  
於テハ他ノ事件ヲ關キ刑  
事局判事全體會議局ニ集

會シ專任判事ノ報告書及  
ヒ檢察長ノ意見書ニ依リ  
判決ヲ為ス可シ

第四百四十五條 大審院ニ  
於テ再審ノ原由アルコトヲ  
認メタル時ハ原裁判言渡  
ヲ破毀シ公訴及ヒ私訴ニ  
付テ再審ヲ為ス可キコトヲ  
言渡シ其事件ヲ原裁判所  
ト同等ナル他ノ裁判所ニ  
移ス可シ

其送付ヲ受ケタル原裁  
判所ニ於テハ通常ノ規  
則ニ從ヒ裁判ヲ為ス可  
シ

第四百四十六條 死者ノ親  
屬ヨリ再審ノ訴ヲ為シタ  
ル場合ニ於テ大審院ニテ  
再審ノ原由アルコトヲ認メ  
タル時ハ其事件ヲ他ノ裁  
判所ニ移ス可キコトヲ原裁判  
官言渡シ破毀ス可シ

第四百四十七條 再審ノ裁  
判ニ因リ無罪ノ言渡アリ

其情更ニ重キヲ  
以テ此刑ニ處ス

第二百六十六條 此章ニ記載シタル罪ヲ犯サントシテ未タ遂ゲザ  
ル者ハ未遂犯罪ノ例ニ照シテ處斷ス

第六十五條ノ二條ニ載セタル罪ニ對シテハ此章ニ記載シタル罪  
ノ例ニ照シテ處斷ス

ハ死屍ヲ見ハサル者ハ未遂  
犯罪ヲ以テ論ス可キモノトス

第八章 凡テ  
六條 商業及ヒ農工ノ業ヲ妨害スル罪

人ノ商業及ヒ農工ノ業ヲ妨害シテ自由ニ  
其業ヲ行フコトヲ得ザラシムル罪ヲ云フ

第二百六十七條 偽計又ハ威力ヲ以テ穀類其他衆人需用ニ缺ク可  
カラザル食用物ノ賣買ヲ妨害シタル者ハ一月以上六月以下ノ重  
禁錮ニ處シ三圓以下三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

暴滅力ヲ用ヒ諸穀物其他衆人日用ニ供シ缺ク可カラザル食用  
ノ物品及ヒ味噌醬油蒸餾ノ類ノ賣買ヲ妨害シ自己ノ利益ヲ  
ラントスル者其害特別商人ニ止ラス

一般公衆ニ係ルヲ以テ本條ノ刑ニ處ス

前項ニ記載シタル以外ノ物品ノ賣買ヲ妨害シタル者ハ一等ヲ減  
ス

罪輕シ故ニ一等ヲ減ス

第二百六十八條 偽計又ハ威力ヲ以テ糶賣又ハ入札ヲ妨害シタル  
者ハ十五日以上三月以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ  
罰金ヲ附加ス

シテノ利益ヲ專ラニセ  
ントスル者ノ罪ヲ云フ

第二百六十九條 偽計又ハ威力ヲ以テ農工ノ業ヲ妨害シタル者ハ  
亦前條ニ同ジ

農工ノ業ヲ妨害シタル者ハ  
亦前條ニ同ジ

第二百七十條 農工ノ雇人其雇賃ヲ増サシメ又ハ農工業ノ景況ヲ  
變セシムル爲メ雇主及ヒ他ノ雇人ニ對シ偽計威力ヲ以テ妨害ヲ

行フ者ハ

刑ニ處ス

刑ニ處ス

刑ニ處ス

刑ニ處ス

刑ニ處ス

刑ニ處ス

刑ニ處ス

刑ニ處ス



治罪法候計

刑法註解

タル時又ハ前條ノ場合ニ於テ破毀ノ言渡アリタル時ハ其者ノ名譽ヲ復スル爲メ其言渡書ヲ揭示公布ス可シ

第二章 裁判管轄ヲ定ムルノ詔

第四百四十八條 通常裁判所ト特別裁判所トヲ問ハズ管轄ニ非ザルノ言渡ヲ爲シ其言渡確定シタル時又忌避ノ理由若シハ非常ノ事變ニ因リ訴訟事件ヲ管理スルノ能ハサル時ハ檢察官其他訴訟關係人ヨリ裁判管轄ヲ定ムルノ詔ヲ爲ス可シ

第四百四十九條 裁判管轄ヲ定ムルノ詔ヲ爲サントスル者ハ其意思書ニ訴訟書類ヲ添ヘテ大審院ニ

書記官ニ差出ス可シ  
第四百五十條 大審院ニ於テハ刑事裁判事五名以上會議局ニ集會シ專任判事ノ報告書及ヒ檢察長ノ意見書ニ依リ裁判管轄ヲ定ムルノ詔ヲ判決シ其事件ヲ管理ス可キ裁判所ヲ定示ス可シ

第四章 公安又ハ嫌疑ノ爲メ裁判管轄ヲ移シ  
第四百五十一條 犯罪ノ性質被告ノ人身ノ被害ノ地方ノ民心其他重大ナル事情ニ因リ裁判ニ對シ總務又ハ危險ヲ生ズルノ恐アル時ハ公安ノ爲メ其事件ヲ同等ナル他ノ裁判所ニ移ス可シ

第四百五十二條 公安ノ爲メ裁判管轄ヲ移スノ詔ハ司法卿ノ命ニ因リ大審院檢察長ヨリ其院ニ之ヲ爲

爲シタル者ハ一月以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ三圓以上三十圓

以下ノ罰金ヲ附加ス

第二百七十一條 雇至其雇賃ヲ減シ又ハ農工業ノ景況ヲ變スル爲

メ雇人及ビ他ノ雇至ニ對シ偽計威力ヲ以テ妨害ヲ爲シタル者ハ

亦前條ニ同ジ

第二百七十二條 虚偽ノ風説ヲ流布シテ穀類其他衆人需用物品ノ

價直ヲ昂低セシメタル者ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第九章 官吏瀆職ノ罪

第九節 官吏公益ヲ害スル罪

第二百七十三條 官吏其管掌ニ係ル法律規則ヲ公布施行セス又ハ

他ノ官吏ノ公布施行ヲ妨害シタル者ハ二月以上六月以下ノ輕禁

錮ニ處シ十圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二百七十四條 兵隊ヲ要求シ及ビ之ヲ使用スル權アル官吏地方

ノ騷擾其他兵權ヲ以テ鎮撫ス可キ時ニ當リ其處分ヲ爲サザル者

ハ三月以上三年以下ノ輕禁錮ニ處シ二十圓以上百圓以下ノ罰金

ノ發擾其他兵權ヲ以テ鎮撫ス可キ時ニ當リ其處分ヲ爲サザル者

ハ三月以上三年以下ノ輕禁錮ニ處シ二十圓以上百圓以下ノ罰金

ノ發擾其他兵權ヲ以テ鎮撫ス可キ時ニ當リ其處分ヲ爲サザル者

ハ三月以上三年以下ノ輕禁錮ニ處シ二十圓以上百圓以下ノ罰金

ノ發擾其他兵權ヲ以テ鎮撫ス可キ時ニ當リ其處分ヲ爲サザル者

ハ三月以上三年以下ノ輕禁錮ニ處シ二十圓以上百圓以下ノ罰金

ノ發擾其他兵權ヲ以テ鎮撫ス可キ時ニ當リ其處分ヲ爲サザル者

ハ三月以上三年以下ノ輕禁錮ニ處シ二十圓以上百圓以下ノ罰金

ノ發擾其他兵權ヲ以テ鎮撫ス可キ時ニ當リ其處分ヲ爲サザル者

ハ三月以上三年以下ノ輕禁錮ニ處シ二十圓以上百圓以下ノ罰金



第四百五十三條 大審院ニ於テハ會議司ニテ訴訟關係人ノ申立ヲ聽クコトナシ  
 前條ノ訴ヲ判決スベシ  
 第四百五十四條 被告人ノ身寄地方ノ民心又ハ訴訟ノ機嫌ニ因リ裁判ノ公平ヲ維持スルコト能ハサルノ恐レアル時ハ嫌疑ノ爲メ其事件ヲ同等ナル他ノ裁判所ニ移ス可シ  
 第四百五十五條 嫌疑ノ爲メ裁判管轄ヲ移スノ訴ハ管轄裁判所ノ檢察官其他訴訟關係人ヨリ之ヲ爲スコト得  
 民事原告人嫌疑アル裁判所ニ移シ又被告人其裁判所ニ於テ異議ノ申立ナクシテ本案ニ付キ辨論ヲ爲シタル時ハ前項ノ訴ヲ爲スコト得

附加スル時警察ノガヲ以テ禁ムルコト能ハザル時ハ其時ハ其時ニ當リ其時ニ當リ其時ニ當リ其時ニ當リ  
 第二百七十五條 官吏規則ニ違背シテ商業ヲ爲シタル者ハ二十圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處ス  
 第二百七十六條 官吏擅ニ減權ヲ用ヒ人ヲシテ其權利ナキ事ヲ行ハシメ又ハ其爲ス可キ權利ヲ妨害シタル者ハ十一日以上二月以下ノ輕禁錮ニ處シ二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス  
 第二百七十七條 人ノ身體財産ヲ妨害スルノ犯人アルニ當リ豫審判事檢察官吏其報告ヲ受ケテ速ニ保護ノ處分ヲ爲ササル者ハ十五日以上三月以下ノ輕禁錮ニ處シ二十圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス  
 第二百七十八條 逮捕官吏法律ニ定メタル程式規則ヲ遵守セズシテ人ヲ逮捕シ又ハ不正ニ人ヲ監禁シタル者ハ十五日以上三月以下ノ輕禁錮ニ處シ二十圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス但監禁日數十日ヲ過タル毎ニ一等ヲ加フ  
 治罪法ニ違背シテ定メタル法式アリ若シ夫レニ背キテ人ヲ監禁スル者ハ其時ニ當リ其時ニ當リ其時ニ當リ其時ニ當リ

第四百五十六條 嫌疑ノ爲メ裁判管轄ヲ移スノ訴ヲ爲スニハ其趣意書ニ通テ原裁判所ノ書記局ニ書記ハ速ニ一通ヲ對手人ニ送達シ對手人ハ其送達アリタルヨリ三日內ニ答辯書ヲ提出スコト得  
 第四百五十七條 大審院ニ於テハ第四百五十五條ノ規則ニ從ヒ前條ノ訴ヲ判決ス可シ  
 第四百五十八條 嫌疑ノ爲メ裁判管轄ヲ移スノ訴アリタル時ハ裁判所ニ於テ其訴訟手續ヲ停止ス  
 第六編 裁判執行復檢及ヒ特赦  
 第一章 裁判執行  
 第四百五十九條 重罪輕罪連帶罪ノ刑ハ裁判確定ノ後ニ非サレハ之ヲ執行ス可カラズ

分チ爲セハ此刑ニ處ス  
 第二百七十七條 人ノ身體財産ヲ妨害スルノ犯人アルニ當リ豫審判事檢察官吏其報告ヲ受ケテ速ニ保護ノ處分ヲ爲ササル者ハ十五日以上三月以下ノ輕禁錮ニ處シ二十圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス  
 第二百七十八條 逮捕官吏法律ニ定メタル程式規則ヲ遵守セズシテ人ヲ逮捕シ又ハ不正ニ人ヲ監禁シタル者ハ十五日以上三月以下ノ輕禁錮ニ處シ二十圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス但監禁日數十日ヲ過タル毎ニ一等ヲ加フ  
 治罪法ニ違背シテ定メタル法式アリ若シ夫レニ背キテ人ヲ監禁スル者ハ其時ニ當リ其時ニ當リ其時ニ當リ其時ニ當リ







第四百六十五條 既決犯罪

表ハ二通ヲ作り一通ヲ司法省ニ送致シ一通ヲ其裁判所ノ書記局ニ送致ス可シ

第四百六十六條 刑ノ言渡ヲ受ケタル者其言渡ノ條件ニ付キ疑義ノ申立又ハ其執行ニ付キ異議ノ申立ヲ為シタル時ハ刑ノ言渡ヲ為シタル裁判所ニ於テ之ヲ判決ス可シ

第四百六十七條 刑ノ言渡ヲ受ケタル者逃亡ノ後捕ニ就キタル場合ニ於テ人達ノ申立アリタル時ハ之ヲ認定スル為メ前ニ其罪ヲ認定タル裁判所ニ送致ス可シ

第四百六十八條 前ニ條ノ場合ニ於テハ公廷ニテ刑ノ言渡ヲ受ケタル者ノ申立及ヒ檢察官ノ意見ヲ聽キ裁判官渡ヲ為ス可シ但シ其言渡ニ對シテハ上訴ヲ許サス

第四百六十九條 賠償及ヒ訴訟關係人ニ償還ス可キ裁判費用ニ付キ其言渡ノ執行ハ通常民事ノ規則ニ從フ

第四百七十條 復讐ノ願ハ刑法第六十三條ニ定メタル期限經過シタル後刑ノ言渡ヲ受ケタル者ヨリ司法官ニ之ヲ為ス可シ

復讐ノ願書ニハ本人署名捺印シ現ニ在スル地ノ始

八事實參考ノ為メ曾テ事件ニ干預シタル裁判官檢察官書記又ハ原告ノ證人ヲ喚出ス可シ得

台程去旁列

刑罰

因テ被告人ヲ死傷ニ致シタル時ハ殴打傷ノ各本條ニ照シ一等ヲ加ヘ重キニ從テ處断ス

第二百八十三條 裁判官檢察官故ナクシテ刑事ノ訴ヲ受理セス又ハ遷延シテ審理セザル者ハ十五日以上三月以下ノ輕禁錮ニ處シ

第二百八十四條 官吏人ノ囑託ヲ受ケ賄賂ヲ收受シ又ハ之ヲ聽シタル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ四圓以上四十圓以

因テ不正ノ處分ヲ為シタル時ハ一等ヲ加フ

第二百八十五條 裁判官民事ノ裁判ニ關シテ賄賂ヲ收受シ又ハ之ヲ聽シタル者ハ二月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

因テ不正ノ裁判ヲ為シタル時ハ一等ヲ加フ

二月十五日以上二年六月以下ノ重禁錮六圓五錢以上六十二圓



審裁判所檢察事ニ之ヲ差出  
ス可シ

第四百七十一條 復権ノ願  
書ニハ左ノ書類ヲ添フ可  
シ

一 裁判官渡書ノ原本

二 主刑ノ満期待赦又  
ハ期滿免除ト爲リタ  
ルコトヲ證明スル書類

三 假出獄及ヒ假ニ監  
視ヲ免セラレタルノ  
證書

四 賠償及ヒ裁判費用  
ヲ辨濟シ又ハ其義務  
ヲ免レタルノ證書

五 過去現在ノ任及  
ヒ生計ヲ記載スル書  
類

第四百七十二條 檢察官願  
人ノ品行其他必要ノ取調  
ヲ爲シ前條ノ書類ニ意見  
書ヲ添ヘ之ヲ控訴裁  
判所檢察事長ニ差出ス可  
シ

第四百七十三條 檢察事長ハ  
更ニ必要ノ取調ヲ爲シ復  
権ノ願ニ關スル書類ニ意  
見書ヲ添ヘ之ヲ司法官ニ  
差出ス可シ

第四百七十四條 司法官ハ  
復権ノ願ニ關スル書類ヲ  
檢閲シ其願ヲ允許ス可キ  
者ト認メタル時ハ速ニ上  
奏ス可シ

第四百七十五條 裁判官又ハ  
司法官ノ意見ニ因リ復権  
ノ願ヲ棄却シタル時ハ司  
法官ヨリ其旨ヲ控訴裁判  
所檢察事長ニ通知シ檢察  
事長ヨリ願書ヲ差出シタル  
裁判所檢察事ニ通知ス可  
シ

前項ノ場合ニ於テハ刑法  
第六十三條ニ定メタル期  
限ノ半ヲ経過スルニ非サ  
レハ更ニ其願ヲ爲ス可  
得ス

五十錢以下ノ  
罰金ニ處ス

第二百八十六條 裁判官檢察警察官吏刑事ノ裁判ニ關シテ賄賂ヲ  
收受シ又ハ之ヲ聽許シタル者ハ二月以上二年以下ノ重禁錮ニ處  
シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

前ノ第二百六十五  
條ノ民事ト檢察警察官吏  
ト對シテ同シキナリ

因テ被告人ヲ曲庇シタル者ハ三月以上三年以下ノ重禁錮ニ處シ  
十圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

若シ其情重キニヨリ此刑ニ處ス

其被告人ヲ陪害シタル者ハ二年以上五年以下ノ重禁錮ニ處シ二  
十圓以上二百圓以下ノ罰金ヲ附加ス若シ枉斷シタル所ノ刑此刑  
ヨリ重キ時ハ第二百二十一條第二百二十二條ノ例ニ照シテ又坐  
ス

若シ陪害ノ爲メニ被告人ヲ陪害スルコト又ハ其陪害ノ爲メニ  
重キ罪ニ入レタル者ハ抑懲ノ爲メニ被告人ヲ陪害スルコト又ハ其陪害ノ爲メニ

陪害ノ爲メニ被告人ヲ陪害スルコト又ハ其陪害ノ爲メニ

陪害ノ爲メニ被告人ヲ陪害スルコト又ハ其陪害ノ爲メニ

陪害ノ爲メニ被告人ヲ陪害スルコト又ハ其陪害ノ爲メニ

陪害ノ爲メニ被告人ヲ陪害スルコト又ハ其陪害ノ爲メニ

陪害ノ爲メニ被告人ヲ陪害スルコト又ハ其陪害ノ爲メニ

陪害ノ爲メニ被告人ヲ陪害スルコト又ハ其陪害ノ爲メニ

陪害ノ爲メニ被告人ヲ陪害スルコト又ハ其陪害ノ爲メニ

陪害ノ爲メニ被告人ヲ陪害スルコト又ハ其陪害ノ爲メニ

陪害ノ爲メニ被告人ヲ陪害スルコト又ハ其陪害ノ爲メニ

陪害ノ爲メニ被告人ヲ陪害スルコト又ハ其陪害ノ爲メニ

陪害ノ爲メニ被告人ヲ陪害スルコト又ハ其陪害ノ爲メニ

陪害ノ爲メニ被告人ヲ陪害スルコト又ハ其陪害ノ爲メニ

陪害ノ爲メニ被告人ヲ陪害スルコト又ハ其陪害ノ爲メニ

陪害ノ爲メニ被告人ヲ陪害スルコト又ハ其陪害ノ爲メニ

陪害ノ爲メニ被告人ヲ陪害スルコト又ハ其陪害ノ爲メニ

陪害ノ爲メニ被告人ヲ陪害スルコト又ハ其陪害ノ爲メニ

陪害ノ爲メニ被告人ヲ陪害スルコト又ハ其陪害ノ爲メニ

陪害ノ爲メニ被告人ヲ陪害スルコト又ハ其陪害ノ爲メニ

陪害ノ爲メニ被告人ヲ陪害スルコト又ハ其陪害ノ爲メニ

陪害ノ爲メニ被告人ヲ陪害スルコト又ハ其陪害ノ爲メニ

陪害ノ爲メニ被告人ヲ陪害スルコト又ハ其陪害ノ爲メニ

陪害ノ爲メニ被告人ヲ陪害スルコト又ハ其陪害ノ爲メニ

陪害ノ爲メニ被告人ヲ陪害スルコト又ハ其陪害ノ爲メニ

陪害ノ爲メニ被告人ヲ陪害スルコト又ハ其陪害ノ爲メニ

陪害ノ爲メニ被告人ヲ陪害スルコト又ハ其陪害ノ爲メニ

陪害ノ爲メニ被告人ヲ陪害スルコト又ハ其陪害ノ爲メニ

陪害ノ爲メニ被告人ヲ陪害スルコト又ハ其陪害ノ爲メニ

陪害ノ爲メニ被告人ヲ陪害スルコト又ハ其陪害ノ爲メニ

陪害ノ爲メニ被告人ヲ陪害スルコト又ハ其陪害ノ爲メニ

陪害ノ爲メニ被告人ヲ陪害スルコト又ハ其陪害ノ爲メニ

陪害ノ爲メニ被告人ヲ陪害スルコト又ハ其陪害ノ爲メニ

陪害ノ爲メニ被告人ヲ陪害スルコト又ハ其陪害ノ爲メニ

陪害ノ爲メニ被告人ヲ陪害スルコト又ハ其陪害ノ爲メニ

陪害ノ爲メニ被告人ヲ陪害スルコト又ハ其陪害ノ爲メニ

第二百八十七條 裁判官檢察警察官吏賄賂ヲ收受聽許セスト雖モ  
情ニ徇ガヒ又ハ怨ヲ挾サミ被告人ヲ曲庇陪害シタル者ハ亦前條  
ノ例ニ同シ

陪害ノ爲メニ被告人ヲ陪害スルコト又ハ其陪害ノ爲メニ

陪害ノ爲メニ被告人ヲ陪害スルコト又ハ其陪害ノ爲メニ

陪害ノ爲メニ被告人ヲ陪害スルコト又ハ其陪害ノ爲メニ

陪害ノ爲メニ被告人ヲ陪害スルコト又ハ其陪害ノ爲メニ

陪害ノ爲メニ被告人ヲ陪害スルコト又ハ其陪害ノ爲メニ

陪害ノ爲メニ被告人ヲ陪害スルコト又ハ其陪害ノ爲メニ

陪害ノ爲メニ被告人ヲ陪害スルコト又ハ其陪害ノ爲メニ

陪害ノ爲メニ被告人ヲ陪害スルコト又ハ其陪害ノ爲メニ

陪害ノ爲メニ被告人ヲ陪害スルコト又ハ其陪害ノ爲メニ

陪害ノ爲メニ被告人ヲ陪害スルコト又ハ其陪害ノ爲メニ

陪害ノ爲メニ被告人ヲ陪害スルコト又ハ其陪害ノ爲メニ

陪害ノ爲メニ被告人ヲ陪害スルコト又ハ其陪害ノ爲メニ

陪害ノ爲メニ被告人ヲ陪害スルコト又ハ其陪害ノ爲メニ

陪害ノ爲メニ被告人ヲ陪害スルコト又ハ其陪害ノ爲メニ

陪害ノ爲メニ被告人ヲ陪害スルコト又ハ其陪害ノ爲メニ

陪害ノ爲メニ被告人ヲ陪害スルコト又ハ其陪害ノ爲メニ

陪害ノ爲メニ被告人ヲ陪害スルコト又ハ其陪害ノ爲メニ

陪害ノ爲メニ被告人ヲ陪害スルコト又ハ其陪害ノ爲メニ

陪害ノ爲メニ被告人ヲ陪害スルコト又ハ其陪害ノ爲メニ

陪害ノ爲メニ被告人ヲ陪害スルコト又ハ其陪害ノ爲メニ

陪害ノ爲メニ被告人ヲ陪害スルコト又ハ其陪害ノ爲メニ

陪害ノ爲メニ被告人ヲ陪害スルコト又ハ其陪害ノ爲メニ

陪害ノ爲メニ被告人ヲ陪害スルコト又ハ其陪害ノ爲メニ

陪害ノ爲メニ被告人ヲ陪害スルコト又ハ其陪害ノ爲メニ

陪害ノ爲メニ被告人ヲ陪害スルコト又ハ其陪害ノ爲メニ

陪害ノ爲メニ被告人ヲ陪害スルコト又ハ其陪害ノ爲メニ

陪害ノ爲メニ被告人ヲ陪害スルコト又ハ其陪害ノ爲メニ

陪害ノ爲メニ被告人ヲ陪害スルコト又ハ其陪害ノ爲メニ

陪害ノ爲メニ被告人ヲ陪害スルコト又ハ其陪害ノ爲メニ

陪害ノ爲メニ被告人ヲ陪害スルコト又ハ其陪害ノ爲メニ

陪害ノ爲メニ被告人ヲ陪害スルコト又ハ其陪害ノ爲メニ

陪害ノ爲メニ被告人ヲ陪害スルコト又ハ其陪害ノ爲メニ

陪害ノ爲メニ被告人ヲ陪害スルコト又ハ其陪害ノ爲メニ

陪害ノ爲メニ被告人ヲ陪害スルコト又ハ其陪害ノ爲メニ

陪害ノ爲メニ被告人ヲ陪害スルコト又ハ其陪害ノ爲メニ

陪害ノ爲メニ被告人ヲ陪害スルコト又ハ其陪害ノ爲メニ

陪害ノ爲メニ被告人ヲ陪害スルコト又ハ其陪害ノ爲メニ

陪害ノ爲メニ被告人ヲ陪害スルコト又ハ其陪害ノ爲メニ

陪害ノ爲メニ被告人ヲ陪害スルコト又ハ其陪害ノ爲メニ

陪害ノ爲メニ被告人ヲ陪害スルコト又ハ其陪害ノ爲メニ

陪害ノ爲メニ被告人ヲ陪害スルコト又ハ其陪害ノ爲メニ

陪害ノ爲メニ被告人ヲ陪害スルコト又ハ其陪害ノ爲メニ

陪害ノ爲メニ被告人ヲ陪害スルコト又ハ其陪害ノ爲メニ

陪害ノ爲メニ被告人ヲ陪害スルコト又ハ其陪害ノ爲メニ

陪害ノ爲メニ被告人ヲ陪害スルコト又ハ其陪害ノ爲メニ

陪害ノ爲メニ被告人ヲ陪害スルコト又ハ其陪害ノ爲メニ

陪害ノ爲メニ被告人ヲ陪害スルコト又ハ其陪害ノ爲メニ

陪害ノ爲メニ被告人ヲ陪害スルコト又ハ其陪害ノ爲メニ

陪害ノ爲メニ被告人ヲ陪害スルコト又ハ其陪害ノ爲メニ

陪害ノ爲メニ被告人ヲ陪害スルコト又ハ其陪害ノ爲メニ

陪害ノ爲メニ被告人ヲ陪害スルコト又ハ其陪害ノ爲メニ

陪害ノ爲メニ被告人ヲ陪害スルコト又ハ其陪害ノ爲メニ

陪害ノ爲メニ被告人ヲ陪害スルコト又ハ其陪害ノ爲メニ

陪害ノ爲メニ被告人ヲ陪害スルコト又ハ其陪害ノ爲メニ

陪害ノ爲メニ被告人ヲ陪害スルコト又ハ其陪害ノ爲メニ

陪害ノ爲メニ被告人ヲ陪害スルコト又ハ其陪害ノ爲メニ

陪害ノ爲メニ被告人ヲ陪害スルコト又ハ其陪害ノ爲メニ

陪害ノ爲メニ被告人ヲ陪害スルコト又ハ其陪害ノ爲メニ

陪害ノ爲メニ被告人ヲ陪害スルコト又ハ其陪害ノ爲メニ

陪害ノ爲メニ被告人ヲ陪害スルコト又ハ其陪害ノ爲メニ

陪害ノ爲メニ被告人ヲ陪害スルコト又ハ其陪害ノ爲メニ

陪害ノ爲メニ被告人ヲ陪害スルコト又ハ其陪害ノ爲メニ

陪害ノ爲メニ被告人ヲ陪害スルコト又ハ其陪害ノ爲メニ

陪害ノ爲メニ被告人ヲ陪害スルコト又ハ其陪害ノ爲メニ

陪害ノ爲メニ被告人ヲ陪害スルコト又ハ其陪害ノ爲メニ

陪害ノ爲メニ被告人ヲ陪害スルコト又ハ其陪害ノ爲メニ

陪害ノ爲メニ被告人ヲ陪害スルコト又ハ其陪害ノ爲メニ

陪害ノ爲メニ被告人ヲ陪害スルコト又ハ其陪害ノ爲メニ

陪害ノ爲メニ被告人ヲ陪害スルコト又ハ其陪害ノ爲メニ

陪害ノ爲メニ被告人ヲ陪害スルコト又ハ其陪害ノ爲メニ

陪害ノ爲メニ被告人ヲ陪害スルコト又ハ其陪害ノ爲メニ

陪害ノ爲メニ被告人ヲ陪害スルコト又ハ其陪害ノ爲メニ

陪害ノ爲メニ被告人ヲ陪害スルコト又ハ其陪害ノ爲メニ

陪害ノ爲メニ被告人ヲ陪害スルコト又ハ其陪害ノ爲メニ

陪害ノ爲メニ被告人ヲ陪害スルコト又ハ其陪害ノ爲メニ

陪害ノ爲メニ被告人ヲ陪害スルコト又ハ其陪害ノ爲メニ

陪害ノ爲メニ被告人ヲ陪害スルコト又ハ其陪害ノ爲メニ

陪害ノ爲メニ被告人ヲ陪害スルコト又ハ其陪害ノ爲メニ

陪害ノ爲メニ被告人ヲ陪害スルコト又ハ其陪害ノ爲メニ

陪害ノ爲メニ被告人ヲ陪害スルコト又ハ其陪害ノ爲メニ

陪害ノ爲メニ被告人ヲ陪害スルコト又ハ其陪害ノ爲メニ

陪害ノ爲メニ被告人ヲ陪害スルコト又ハ其陪害ノ爲メニ

陪害ノ爲メニ被告人ヲ陪害スルコト又ハ其陪害ノ爲メニ







刑罰法條

大政官御布告

明治十三年

第三十六號

刑罰法別冊ノ遺改定候條此

旨布告候事

但實際施行ノ期日ハ遺

テ布告ス可キ事

明治十三年七月十七日

左大臣熾仁親王

第三十七號

治罪法別冊ノ通創定候條

此旨布告候事

但實際施行ノ期日ハ遺

テ布告ス可キ事

明治十三年七月十七日

左大臣熾仁親王

第四十四號

違警罪ノ審判ニ關スル一

切ノ手續ハ治罪法ニ從フ

ベシト雖モ實際已ムヲ得

ザル場合ニ於テハ當分ノ

内便宜取計ト其裁判言渡

ニ付テハ總テ上訴ヲ許サ

ス此旨布告候事

第四十五號

公訴私訴ニ係ル控訴上告

及ビ證人呼出費用等ノ儀

當分左ノ通相定候條此旨

布告候事

刑事裁判所ノ裁判言渡ニ

對シ訴訟關係人ヨリ控訴

又ハ上告ヲ爲ス者アル時

ハ原裁判所ニ於テ其訴訟

費用ノ金額ヲ算定シテ之

ヲ豫納セシム可シ若シ豫

納スルコト能ハザル時ハ

控訴又ハ上告ヲ爲スヲ許

サズ

豫審者ハ公判ニ付證人ヲ

呼出サント請フ者アル時

ハ裁判所ニ於テ其旅費日

當等ノ金額ヲ算定シテ之

刑罰法條

刑罰法條

二處ス

謀殺トハ人ヲ殺スルニ或ハ殺スルニシテ

殺スモノヲ云フケクノ心組ミ思慮ヲ起シテ

殺スベキハ當然ノ理ナリ

第二百九十三條

毒物ヲ施用シテ人ヲ殺シタル者ハ謀殺ヲ以テ論

ジ死刑ニ處ス

毒物ヲ用ヒテ人ヲ害スルハ其毒惡毒ナル

無知無心ノ間ニ殺害セラルハ以テ更ニ之ヲ

殺スベキハ當然ノ理ナリ

第二百九十四條

故意ヲ以テ人ヲ殺シタル者ハ故殺ノ罪ト爲シ無

期徒刑ニ處ス

故意トハ始ヨリ人ヲ殺スノ心組アルニ非ズ

バ人ト認等シ一時ノ怒ニ堪ズシテ忽チ殺シ

テ殺シタル者ナレバ前カドヨリ謀リタルト

ハ自カラ殺シテ

前二條ヨリ輕シ故ニ無期徒刑ニ處スルナリ

ハ從犯アルハ其場合ナシトス其臨時ニ起ル

テナリ

第二百九十五條

支解折割其他慘烈ノ所爲ヲ以テ人ヲ故殺シタル

者ハ死刑ニ處ス

支解折割ニハ非カト雖トモ人ノ手

ル所爲ヲ以テ極惡ノ罪ヲ犯セシ者ハ假令謀殺

モソノ所爲ノ極惡ナルヲ以テ之ヲ死刑ニ處スルナリ

第二百九十六條

重罪輕罪ヲ犯スニ便利ナル爲メ又ハ已ニ犯シテ

其罪ヲ免ガル爲メ人ヲ故殺シタル者ハ死刑ニ處ス

謀テ殺シタルニ非ザレバ罪ヲ犯スニ便利ナル爲メ

シ又ハ已ニ罪ヲ犯シテ逃去シタル者ニ對シテ

刑ニ處スルヲ云フ例ハ強盜殺害ヲ犯シタル者

或ハ竊盜ニ入り已ニ財物ヲ盜ミ取リタル後

其家主之ヲ取リ殺ス

ノトスルヲ故殺スルガ如キノ強盜アルガタメ

テ之レヲ死刑ニ處ス

第二百九十七條

人ヲ殺スノ意ニ出テ詐稱誘導シテ危害ニ陥レ死

ニ致シタル者ハ故殺ヲ以テ論ジ其謀メ謀ル者ハ謀殺ヲ以テ論

シテ死刑ニ處ス

詐稱誘導シテ危害ニ陥レ死ニ致シタル者ハ

謀殺ニシテ死刑ニ處ス



治罪法例

刑罰法例

納スルノ資カナキ時ハ治罪法第七十條ノ制限ニ從テ裁判所ニ於テ其費用ヲ立替置シ可シ

第二十九十八條 謀殺故殺ノ行ヒ謀テ他人ヲ殺シタル者ハ仍小謀故殺ヲ以テ論ズ

第四十六号 書類送達ニ付治罪法第二十四條ノ制限有之候ヘドモ當分ノ内ハ不及其儀候事

第二節 毆打創傷ノ罪

治罪法第四十條ニ犯罪ノ地ヲ以テ裁判管轄ト規定有之候處當分ノ内犯罪ノ地分明ナル被告人ト雖モ管轄裁判所ヨリ囑託アル告ヲ爲ス者被告人逮捕ノ地ノ裁判所之ヲ管轄スベシ

第二百九十九條 人ヲ毆打創傷シ因テ死ニ致シタル者ハ重懲役ニ處ス

治罪法第七十三條第二項ニ陪席判事四名ト有之候ヘトモ當分ノ内二名ト指定候事

第二節 毆打創傷ノ罪

治罪法第一百條ニ准現行犯ノ場合列記有之候處其舉動犯人ト思料スベキ者

第二百九十九條 人ヲ毆打創傷シ因テ死ニ致シタル者ハ重懲役ニ處ス

アル時ハ當分ノ内現行犯ニ准ジ處分スルヲ得

第二百九十九條 人ヲ毆打創傷シ其兩目ヲ瞎シ兩耳ヲ聾シ又ハ兩肢ヲ折リ及ビ舌ヲ斷チ陰陽ヲ毀敗シ若クハ知覺精神ヲ喪失セシメ篤疾ニ致シタル者ハ輕懲役ニ處ス

治罪法第二百三十三條第三項ニ家宅搜索ノ制限有之候ヘドモ芝居人寄席飲食店湯屋遊船寄待合茶屋ノ類ハ日出前日役後ト雖モ其營業ヲ爲ス時間又ハ夜莖屋貸座敷ハ日出前日役後ニ拘ハラズ搜索致シ得シカラス

第二百九十九條 人ヲ毆打創傷シ其兩目ヲ瞎シ兩耳ヲ聾シ又ハ兩肢ヲ折リ及ビ舌ヲ斷チ陰陽ヲ毀敗シ若クハ知覺精神ヲ喪失セシメ篤疾ニ致シタル者ハ輕懲役ニ處ス

治罪法第六十八條第七十三條ニ於テ治安判事ニ囑託スルヲ許シタル處分ハ當分ノ内其地ノ司法警察官ニモ囑託スルヲ得

第二百九十九條 人ヲ毆打創傷シ其兩目ヲ瞎シ兩耳ヲ聾シ又ハ兩肢ヲ折リ及ビ舌ヲ斷チ陰陽ヲ毀敗シ若クハ知覺精神ヲ喪失セシメ篤疾ニ致シタル者ハ輕懲役ニ處ス

治罪法第二百五條第一項但書ニ司法警察官ハ令狀ヲ發スルヲ得ナル旨記載有之候ヘドモ當分ノ内現行犯ノ場合ニ限リ令狀ヲ發シ得シカラズ

第二百九十九條 人ヲ毆打創傷シ其兩目ヲ瞎シ兩耳ヲ聾シ又ハ兩肢ヲ折リ及ビ舌ヲ斷チ陰陽ヲ毀敗シ若クハ知覺精神ヲ喪失セシメ篤疾ニ致シタル者ハ輕懲役ニ處ス

第四十七号

第二百九十九條 人ヲ毆打創傷シ其兩目ヲ瞎シ兩耳ヲ聾シ又ハ兩肢ヲ折リ及ビ舌ヲ斷チ陰陽ヲ毀敗シ若クハ知覺精神ヲ喪失セシメ篤疾ニ致シタル者ハ輕懲役ニ處ス

治罪法第二百五條第一項但書ニ司法警察官ハ令狀ヲ發スルヲ得ナル旨記載有之候ヘドモ當分ノ内現行犯ノ場合ニ限リ令狀ヲ發シ得シカラズ

第二百九十九條 人ヲ毆打創傷シ其兩目ヲ瞎シ兩耳ヲ聾シ又ハ兩肢ヲ折リ及ビ舌ヲ斷チ陰陽ヲ毀敗シ若クハ知覺精神ヲ喪失セシメ篤疾ニ致シタル者ハ輕懲役ニ處ス

第四十七号

第二百九十九條 人ヲ毆打創傷シ其兩目ヲ瞎シ兩耳ヲ聾シ又ハ兩肢ヲ折リ及ビ舌ヲ斷チ陰陽ヲ毀敗シ若クハ知覺精神ヲ喪失セシメ篤疾ニ致シタル者ハ輕懲役ニ處ス

治罪法第二百五條第一項但書ニ司法警察官ハ令狀ヲ發スルヲ得ナル旨記載有之候ヘドモ當分ノ内現行犯ノ場合ニ限リ令狀ヲ發シ得シカラズ

第二百九十九條 人ヲ毆打創傷シ其兩目ヲ瞎シ兩耳ヲ聾シ又ハ兩肢ヲ折リ及ビ舌ヲ斷チ陰陽ヲ毀敗シ若クハ知覺精神ヲ喪失セシメ篤疾ニ致シタル者ハ輕懲役ニ處ス

刑罰法例 第三編 第一章 第二節 九十五







新發田		新瀉		上田		長野		松本		宇都宮		朽木		土浦		水戸		水更津		千葉	
新發田	新瀉	岩村田	上田	飯山	長野	福嶋	大町	飯田	松本	谷村	宇都宮	朽木	下野	土浦	水戸	水更津	八日市場	千葉	千葉	千葉	千葉
新瀉縣	新瀉縣	長野縣	長野縣	長野縣	長野縣	長野縣	長野縣	長野縣	長野縣	長野縣	朽木縣	朽木縣	茨城縣	茨城縣	茨城縣	千葉縣	千葉縣	千葉縣	千葉縣	千葉縣	千葉縣
越後	越後	信濃	信濃	信濃	信濃	信濃	信濃	信濃	信濃	下野	下野	下野	下野	下野	下野	下野	下野	下野	下野	下野	下野

**第三百五條** 二人以上共ニ人ヲ毆打創傷シタル者ハ現ニ手ヲ下シ傷ヲ成スノ輕重ニ從テ各自ニ其刑ヲ科ス若シ共設シテ傷ヲ成スノ輕重ヲ知ルル能ハザル時ハ其重傷ノ刑ニ照シ一等ヲ減ス但教唆者ハ減等ノ限ニ在ラス

**第三百六條** 二人以上共ニ人ヲ毆打スルニ當リ自ら人ヲ傷セスト雖モ幫助シテ傷ヲ成サシメタル者ハ現ニ傷ヲ成シタル者ノ刑ニ一等ヲ減ズ

其助カノ爲メニ傷ヲナシシレバ其本刑ニ一等ヲ減ズ

**第三百七條** 健康ヲ害ス可キ物品ヲ施用シテ人ヲ疾苦セシメタル者ハ豫メ謀テ毆打創傷スルノ例ニ照シテ處斷ス

其助カノ爲メニ傷ヲナシシレバ其本刑ニ一等ヲ減ズ

**第三百八條** 人ヲ殺スノ意ニ非ズト雖モ詐稱誘導シテ危害ニ陷レ因テ疾病死傷ニ致シタル者ハ毆打創傷ヲ以テ論ス

殺傷ニ關スル有恕及ビ不論罪

新發田		新瀉		上田		長野		松本		宇都宮		朽木		土浦		水戸		水更津		千葉	
新發田	新瀉	岩村田	上田	飯山	長野	福嶋	大町	飯田	松本	谷村	宇都宮	朽木	下野	土浦	水戸	水更津	八日市場	千葉	千葉	千葉	千葉
新瀉縣	新瀉縣	長野縣	長野縣	長野縣	長野縣	長野縣	長野縣	長野縣	長野縣	長野縣	朽木縣	朽木縣	茨城縣	茨城縣	茨城縣	千葉縣	千葉縣	千葉縣	千葉縣	千葉縣	千葉縣
越後	越後	信濃	信濃	信濃	信濃	信濃	信濃	信濃	信濃	下野	下野	下野	下野	下野	下野	下野	下野	下野	下野	下野	下野

**第三百九條** 人ヲ殺スノ意ニ非ズト雖モ詐稱誘導シテ危害ニ陷レ因テ疾病死傷ニ致シタル者ハ毆打創傷ヲ以テ論ス

殺傷ニ關スル有恕及ビ不論罪

**第三百十條** 人ヲ殺スノ意ニ非ズト雖モ詐稱誘導シテ危害ニ陷レ因テ疾病死傷ニ致シタル者ハ毆打創傷ヲ以テ論ス

殺傷ニ關スル有恕及ビ不論罪

**第三百十一條** 人ヲ殺スノ意ニ非ズト雖モ詐稱誘導シテ危害ニ陷レ因テ疾病死傷ニ致シタル者ハ毆打創傷ヲ以テ論ス

殺傷ニ關スル有恕及ビ不論罪



大		所										
大	大	京	相	高	長	新	新	上	上	上	上	上
阪	阪	都	川	田	岡	發	發	田	田	田	田	田
天王寺	中之島	伏見	相川	高田	長岡	新發田	新發田	新發田	新發田	新發田	新發田	新發田
大坂府	中之島	京都府	新瀧縣	新瀧縣	新瀧縣	新瀧縣	新瀧縣	新瀧縣	新瀧縣	新瀧縣	新瀧縣	新瀧縣
河内	河内	河内	河内	河内	河内	河内	河内	河内	河内	河内	河内	河内

第三百九條 自己ノ身体ニ暴行ヲ受クルニ因リ直チニ怒ヲ發シ暴行人ヲ殺傷シタル者ハ其罪ヲ宥恕ス但不正ノ所為ニ因リ自ラ暴行ヲ招キタル者ハ此限ニ在ラス

第三百十條 毆打シテ互ニ創傷シ其手ヲ下スノ先後ヲ知レ能ハサル者ハ各其罪ヲ宥恕スルヲ得

第三百十一條 本夫其妻ノ姦通ヲ覺知シ姦所ニ於テ直チニ姦夫又ハ姦婦ヲ殺傷シタル者ハ其罪ヲ宥恕ス但本夫先ニ姦通ヲ從容シタル者ハ此限ニ在ラス

訴		控										段	
福	彦	大	津	岡	洲	豐	姫	神	宮	國	國	國	國
井	根	津	山	山	本	岡	路	戶	津	部	部	部	部
金	敦	小	大	高	岡	洲	豐	姫	神	宮	國	國	國
澤	賀	濱	津	梁	山	本	岡	路	戶	津	部	部	部
福	福	福	滋	岡	兵	丹	播	播	播	播	播	播	播
井	井	井	賀	山	庫	波	磨	磨	磨	磨	磨	磨	磨
越	越	越	近	美	備	備	備	備	備	備	備	備	備
前	前	前	江	作	前	前	前	前	前	前	前	前	前
加	加	加	加	加	加	加	加	加	加	加	加	加	加
賀	賀	賀	賀	賀	賀	賀	賀	賀	賀	賀	賀	賀	賀

第三百十二條 晝間故ナク人ノ住居シタル邸宅ニ入り若クハ門戸ノ牆壁ヲ踰越損壞セントスル者ヲ防止スル爲メ之ヲ殺傷シタル者ハ其罪ヲ宥恕ス

第三百十三條 晝間故ナク人ノ住居シタル邸宅ニ入り若クハ門戸ノ牆壁ヲ踰越損壞セントスル者ヲ防止スル爲メ之ヲ殺傷シタル者ハ其罪ヲ宥恕ス



審判											
高松	中村	高知	脇野	徳島	甲斐	和歌山	奈良	堺	七尾	富山	金澤
丸亀	高松	中村	高知	脇野	徳島	和歌山	奈良	堺	七尾	富山	金澤
愛媛	高知	徳島	和歌山	大阪府	石川	石川					
讃岐	土佐	河内	和歌山	大和	河内	和歌山	能登	越中	越中		

名古屋									
松山	宇和島	名古屋	岡崎	安濃津	山田	岐阜	高山	高島	廣島
西條	宇和島	名古屋	岡崎	安濃津	山田	岐阜	高山	高島	廣島
伊豫	伊豫	尾張	三河	伊豫	伊豫	伊豫	美濃	飛騨	備後
伊豫	伊豫	尾張	三河	伊豫	伊豫	伊豫	美濃	飛騨	備後

第三百十三條

前數條ニ記載シタル宥恕ス可キ罪ハ各本刑ニ照シ  
 二等又ハ三等ヲ減ス  
其証據ノ本刑ニ二等又ハ三等ヲ減スベキコトヲ云フ但シ第三百九條ヨリ本刑マデハ宥恕減軽ヲ云フモノナリ

第三百十四條

身體生命ノ正當ニ防衛シ己ムコトヲ得ザルニ出デ暴  
 行人ヲ殺傷シタル者ハ自己ノ爲メニ他人ノ爲メニスルヲ分々  
 ス其罪ヲ論ゼズ但シ不正ノ所為ニ因リ自ラ暴行ヲ招キタル者ハ  
 此限ニ在ラス  
此限ニ在ラスハ他人ヨリ暴行ヲ受ケ已レガミテ正當ニ防グベキ  
 限リノカガフ限リテ防衛シタル上如何ニモ其暴行人ヲ殺シ又ハ傷  
 ヲ與スニ非レバ已レノ身體生命ヲ害セラルベク是ソノ外ニ違カ  
 ルベキ事ヲ得ナク己ムコトヲ得ズ之ヲ殺傷シタル者ハ自己ノ爲メニ  
 クルハ勿論他人ノ爲メトモ其罪ヲ許サルベシ但シ已レヨ  
 リ不正ノ所為アリテ暴行ヲ招キタル者ハ本條ノ場合ナリ  
 殺傷ノ罪ハ免ル可カラズ 参考 第七十五條ヨリ八十四條マデ

第三百十五條

左ノ諸件ニ於テ己ムコトヲ得ザルニ出デ人ヲ殺傷シ  
 タル者ハ其罪ヲ論ゼズ  
左ニ記載ノ第一項第二項ハ自己ノ  
 財產ニ對シ放火其他暴行ヲ爲ス者ヲ防止スルニ出タル時  
 此項ハ己レノ財產ニ對シ暴行  
 ヲ行ハルハ防止スル爲メ殺傷シタルヲ云フ

一

財產ニ對シ放火其他暴行ヲ爲ス者ヲ防止スルニ出タル時  
此項ハ己レノ財產ニ對シ暴行  
 ヲ行ハルハ防止スル爲メ殺傷シタルヲ云フ

二

盜犯ヲ防止シ又ハ盜賊ヲ取還スルニ出タル時  
此項ハ己レノ財產ニ對シ暴行  
 ヲ行ハルハ防止スル爲メ殺傷シタルヲ云フ

三

夜間故ナク人ノ住居シタル邸宅ニ入り若クハ門戶牆壁ヲ  
 踰越損壞スル者ヲ防止スルニ出タル時  
此項ハ己レノ財產ニ對シ暴行  
 ヲ行ハルハ防止スル爲メ殺傷シタルヲ云フ







宮城										
仙臺	石巻	大河原	福島	白川	平	若松	米澤	山形	酒田	盛岡
仙臺	石巻	大河原	福島	白川	平	若松	米澤	山形	酒田	盛岡
仙臺	石巻	大河原	福島	白川	平	若松	米澤	山形	酒田	盛岡
仙臺	石巻	大河原	福島	白川	平	若松	米澤	山形	酒田	盛岡

第三百二十條 人ヲ教唆シテ自殺セシメ又ハ囑託ヲ受ケテ自殺人ノ爲ニ手ヲ下シタル者ハ六月以上三年以下ノ輕禁錮ニ處シ十圓以上五十圓以下ノ罰金ニ附加ス其他自殺ノ補助ヲ爲シタル者ハ一等ヲ減ス

第三百二十一條 自己ノ利ヲ圖リ人ヲ教唆シテ自殺セシメタル者ハ重懲役ニ處ス

第三百二十二條 擅ニ人ヲ逮捕シ又ハ私家ニ監禁シタル者ハ十一月

院										
大曲	函館	江刺	福山	青森	弘前	八戸	八戸	八戸	八戸	八戸
大曲	函館	江刺	福山	青森	弘前	八戸	八戸	八戸	八戸	八戸
大曲	函館	江刺	福山	青森	弘前	八戸	八戸	八戸	八戸	八戸
大曲	函館	江刺	福山	青森	弘前	八戸	八戸	八戸	八戸	八戸

第三百二十二條 擅ニ人ヲ逮捕シ又ハ私家ニ監禁シタル者ハ十一月

第六節 擅ニ人ヲ逮捕監禁スル罪

第三百二十九條 見ヘタリ

刑罰法

刑罰法

刑罰法

刑罰法



テハ上訴ヲ許ス  
第五十五号  
治罪法第七十三條末文附  
刑罰第七十九條第二項  
補充刑罰ノ儀當分其裁判  
所又ハ院長ノ臨時指定ス  
ル所ニ任シ候條此旨布告  
候事

第五十六号  
小笠原島裁判事務當分東  
京府出張所ニテ治安裁判  
所(即チ違警罪裁判所)始審  
裁判所(即チ輕罪裁判所)ノ  
權限ヲ以テ裁判セシノ民  
刑事控訴及重罪裁判ハ東  
京控訴裁判所ノ管轄ト相  
定明治十五年一月一日ヨ  
リ施行候此旨布告候事  
但該島ニ於テ治罪ノ手  
續ハ適宜取扱ヘシ

第五十七号  
伊豆七島裁判事務當分該  
島吏(民事事ハ百円以下及  
勸解並ニ刑事ハ違警罪ノ  
裁判ヲ委任シ民事百圓以  
上ニ東京始審裁判所ノ管  
轄ト相定明治十五年一月  
一日施行候條此旨布告候  
事

第五十九号  
治罪法中豫審刑事引狀  
ヲ發シ勾引セシメタル被  
告人ハ時宜ニ依リ其訊問  
期限四十八時間ニ在ル夜  
間ニ限リ裁判所又ハ最寄  
警察留置場ニ入置クベシ  
此旨布告候事

第七十一号  
治安裁判所ニ於テ輕罪裁  
判所ノ開ク時ノ當分ノ内  
其所在ノ地警部ヲシテ檢  
事ノ職務ヲ代理セシム  
右奉 勅旨布告候事  
明治十四年十二月廿八日  
大政大臣 三條實美  
司法卿 大木喬任

第七十二号  
明治十五年一月一日ヨリ

以上二月以下ノ重禁錮ニ處シ三圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附  
加ス但監禁日數十日ヲ過グル毎ニ一等ヲ加フ

第三十三條 擅ニ人ヲ監禁制縛シテ毆打拷責シ又ハ飲食衣服  
ヲ屏去シ其他苛刑ノ爲ニ施シタル者ハ二月以上二年以下ノ重  
禁錮ニ處シ三圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二百二十四條 前條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ疾病死傷ニ致シタル者  
毆打創傷ノ各本條ニ照シ重キニ從テ處斷ス

第二百二十五條 擅ニ人ヲ監禁シ水火震災ノ際其監禁ヲ解ク  
ヲ怠リ因テ死傷ニ致シタル者ハ亦前條ノ例ニ同シ

第七節 脅迫ノ罪  
第三百二十六條 人ヲ殺サント脅迫シ又ハ人ノ住居シタル家屋ニ

治罪法第七編

刑罰法第三編 第一章 第七節



刑罰法施行候ニ付法律規則  
中罰例ニ係ルモノハ左ノ  
例ニ照シテ處断スヘシ  
第一條 凡懲役ハ十一月  
以上ヲ重禁錮ニ處シ十日  
以下ヲ拘留ニ處ス  
第二條 凡禁獄及ヒ禁錮  
ハ十一月以上ヲ重禁錮ニ  
處シ十日以下ヲ拘留ニ處  
ス  
第三條 凡罰金及ビ科料  
ハ二圓以上ヲ罰金ニ處シ  
二圓未満ヲ五錢以上一圓  
九十五錢以下ノ科料ニ處ス  
第四條 法ニ照シ律ニ照  
シ若クハ違令違式ニ照シ  
處断ストアリ及ヒ各可申  
付トアルハ總テ二圓以上  
百圓以下ノ罰金ニ處ス  
第五條 法律規則ヲ犯シ  
タル者ニハ刑法ノ再犯加  
重及ビ數罪俱發ノ例ヲ用  
ヒス  
第六條 法律規則中罰例

放火セント脅迫シタル者ハ二月以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ二  
圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス  
ト脅シ退レバ其人ヲシテ甚ダ畏懼セシメテ其ノ家ヲ燒ラシム  
ベシサレバ現ニ其事ヲ行ヒシニ將テ止ムル人ヲ脅シタル者  
ヲ以テ本項ノ如ク處断スルナリ  
毆打創傷其他暴行ヲ加ヘント脅迫シ又ハ財産ニ放火シ及ビ毀壞  
劫掠セント脅迫シタル者ハ十一月以上二月以下ノ重禁錮ニ處シ  
二圓以上十圓以下ノ罰金ヲ附加ス  
等ノ類ヲ成ラズシト脅迫シ又ハ其ノ財産ヲ人ノ位階セザル家屋定  
造物船艇其他ノ物件ヲ合謀シテ打テ毀テ奪取ラント脅迫スル  
罪ニシテ人ヲ畏怖セシムルノ前項ニ比シテハ自  
ラ輕シトス故ニ其刑モ及前項ヨリ輕キモノトス  
第三百二十七條 兇器ヲ持シテ前條ノ罪ヲ犯シタル者ハ各二等ヲ  
加フ  
兇器ノ類ハ前條ノ罪ヲ犯スニ當リ手ニ兇器ヲ持シタル者ハ其ノ人ヲ恐  
懼スル者ヲ添シ故ニ一等ヲ加ヘ人ヲ殺サント脅迫シタル者ハ一  
月七日以上七月十五日以下ノ重禁錮ニ處シ五十錢以上二十五圓以下  
ノ罰金ニ處シ或ハ其刑ノ重キモノトシテ處断スルナリ  
第三百二十八條 親屬ニ害ヲ加フ可キ事ヲ以テ脅迫シタル者ハ亦  
前二條ノ例ニ同ジ  
ト脅迫シタル時ハ其親屬ニ害ヲ加フ可キ事ヲ以テ脅迫シタル者ハ亦  
ケレバ直チニ本人ニ對シテ脅迫シタルト同罪ノ刑ニ處シ且ハ其ノ  
ヲ殺サント脅迫スレバ第二百二十六條ノ前項ノ刑ニ處シ且ハ其ノ  
傷其他暴行ヲ加ヘント脅迫スレバ同條後項ノ刑ニ處シ且ハ其ノ  
レテ脅迫スレバ前二百二十七條ニ照  
シ一等ヲ加ヘテ處断スルヲ云フ  
第三百二十九條 此節ニ記載シタル罪ハ脅迫ヲ受ケタル者又ハ其  
親屬ノ告訴ヲ待テ其罪ヲ論ズ  
ハ其親屬ヨリ訴ヘ出ルニ非ザレバ其罪ヲ論セザルモノトス  
由 本節ノ罪ハ他ヨリ告訴ストモ其罪ヲ論セザルモノトス  
人ノ脅迫ノ強弱ニ因リ之レニ感觸スル者ト感觸セザル  
者トアリテ池ヨリ之レヲ圖リ知ル可カラザレバナリ  
第八節 墮胎ノ罪  
此節ハ墮胎ノ罪ニ關スルモノトス

アリト雖モ刑法ニ正條ア  
ルモノハ刑法ニ依テ處断  
ス  
第七條 前數條ノ罪ヲ犯  
シ拘留科料ニ處スル者ト  
雖モ輕罪裁判所ニ於テ之  
ヲ裁判ス  
但始審裁判所在ノ地ヲ  
除クノ外ハ治安裁判所  
ニ於テ之ヲ裁判スルヲ  
得  
右奉 勅旨布告候事  
明治十四年十二月廿八日  
大政大臣 三條實美  
司法卿 大木喬任  
第七十三號  
治罪法ニ於テ無能力者法  
律ニ定メタル代人及ヒ民  
事擔當人ト稱スル者ハ左  
ノ通  
無能力者  
一 未ト年者  
二 妻タル者  
三 白痴癡人

刑罰法施行候ニ付法律規則  
中罰例ニ係ルモノハ左ノ  
例ニ照シテ處断スヘシ  
第一條 凡懲役ハ十一月  
以上ヲ重禁錮ニ處シ十日  
以下ヲ拘留ニ處ス  
第二條 凡禁獄及ヒ禁錮  
ハ十一月以上ヲ重禁錮ニ  
處シ十日以下ヲ拘留ニ處  
ス  
第三條 凡罰金及ビ科料  
ハ二圓以上ヲ罰金ニ處シ  
二圓未満ヲ五錢以上一圓  
九十五錢以下ノ科料ニ處ス  
第四條 法ニ照シ律ニ照  
シ若クハ違令違式ニ照シ  
處断ストアリ及ヒ各可申  
付トアルハ總テ二圓以上  
百圓以下ノ罰金ニ處ス  
第五條 法律規則ヲ犯シ  
タル者ニハ刑法ノ再犯加  
重及ビ數罪俱發ノ例ヲ用  
ヒス  
第六條 法律規則中罰例



刑法講義 刑罰法 胎死

四治産ノ禁ヲ受ケタル者  
法律ニ定メタル代人  
一未丁年者ノ父若クハ  
母又ハ親屬後見人  
二夫タル者  
三白痴癡癩人ノ保管者  
四治産ノ禁ヲ受ケタル  
者ノ財産管理人  
民事擔當人  
一未丁年者ノ父若クハ  
母又ハ同居ノ親屬ニ  
テ監督ヲ爲ス者  
二夫タル者  
三白痴癡癩人ノ保管者  
四雇主

但雇人其雇主ノ命レ  
タル事件ヲ行フ時  
明治十四年十二月廿八日  
太政大臣 三條實美  
司法卿 大木喬任

第七十四號  
治罪法中刑事ノ控訴ニ關  
スル條件ハ當分ノ内實施  
セス  
右奉 勅旨布告候事  
明治十四年十二月廿八日  
太政大臣 三條實美  
司法卿 大木喬任

第七十六號  
本年十月第五十三號布告  
裁判所名稱區劃表始審ノ  
行中相川豊岡洲本町邊  
町高山西郷平戸福江原  
天草大曲八戸ノ各攝ヲ削  
除シ其管轄ハ相川ヲ新設  
ニ豊岡ヲ姫路ニ洲本ヲ神  
戸ニ田邊ヲ和歌山ニ那智  
ヲ徳島ニ高山ヲ岐阜ニ西  
郷ヲ松江ニ平戸福江原  
ヲ長崎ニ天草ヲ熊本ニ大  
曲ヲ秋田ニ八戸ヲ弘前ニ  
合併ス  
右奉 勅旨布告候事  
明治十四年十二月廿八日  
太政大臣 三條實美  
司法卿 大木喬任

胎死シタル罪ニシテ、孕婦自カニシテ、墮胎シ、或ハ、医師、藥師、  
若クハ、毒夫、毒婦、ニト同謀シテ、墮胎セシメ、或ハ、医師、藥師、  
高導、其罪ヲ犯シ、或ハ、威逼、誑騙、ニシテ、或ハ、毆打、  
暴行ヲ加ヘ、因テ、墮胎ニ至ラシムルノ類

第三百三十條 懷胎ノ婦女藥物其他ノ方法ヲ以テ墮胎シタル者ハ  
一月以上六月以下ノ重禁錮ニ處ス  
タル者ハ其情狀ニ於テ少シク思フ可キ處ノ旨アリ、或ハ、  
リ其刑ヲ輕クシ一月以上六月以下ノ重禁錮ニ處スルニ至ラズ  
錮ニ罰金ノ附加ナキ者ハ婦女ハ固ヨリ財  
物ヲ所有セザル者ト看做スヲ以テナリ

第三百三十一條 藥物其他ノ方法ヲ以テ墮胎セシメタル者ハ亦  
條ニ同ジ因テ婦女ヲ死ニ致シタル者ハ一年以上三年以下ノ重禁  
錮ニ處ス  
本條ハ懷胎ノ婦女ト謂フ同マシ、毒夫、毒婦、  
レムルハ、固ヨリ婦女ト同謀、丁ナレバ、婦女ハ、自ラ、墮胎セ  
同刑ニ處ス然レトモ、婦女ノレカ爲ニ死シタル時ハ、  
年以テ出タルトトモ、其罪科、墮胎ノ罪ニ止ラズ、  
年以テ出タルトトモ、其罪科、墮胎ノ罪ニ止ラズ、  
年以テ出タルトトモ、其罪科、墮胎ノ罪ニ止ラズ、

第三百三十二條 醫師穩婆又ハ藥商前條ノ罪ヲ犯シタル者ハ各一  
等ヲ加フ  
本條ハ、  
セシメタル者ハ、前條ノ刑ニ各一  
ハ一月七日以上七月十五日  
三月以上三年以下ノ  
重禁錮ニ處スルニシ

第三百三十三條 懷胎ノ婦女ヲ威逼シ又ハ誑騙シテ墮胎セシメ  
ル者ハ一年以上四年以下ノ重禁錮ニ處ス  
本條ハ、  
又ハ、  
罪、  
死ニ致シタルハ、  
三十五條ヲ見ルニシ

第三百三十四條 懷胎ノ婦女ナルコトヲ知テ毆打其他暴行ヲ加ヘ因  
テ墮胎ニ至ラシメタル者ハ二年以上五年以下ノ重禁錮ニ處ス其  
墮胎セシムルノ意ニ出タル者ハ輕懲役ニ處ス  
本條ハ、  
レモ、  
意、  
本條ハ、  
ル者ハ、  
ル者ハ、

胎死法務

胎死法務 第三編 第一章 第八節 百四







管轄	所管轄ノ地方
千葉重罪裁判所	千葉 水戸
同	同
栃木重罪裁判所	栃木 宇都宮
同	同
群馬重罪裁判所	群馬 前橋
同	同
茨城重罪裁判所	茨城 水戸
同	同
山梨重罪裁判所	山梨 山梨
同	同
甲府始審裁判所管轄ノ地方	甲府
静岡重罪裁判所	静岡 静岡
同	同
長野重罪裁判所	長野 長野
同	同
大坂重罪裁判所	大坂 大坂
同	同
京都重罪裁判所	京都 京都
同	同
兵庫重罪裁判所	兵庫 兵庫
同	同
神戶重罪裁判所	神戶 神戶
同	同
和歌山重罪裁判所	和歌山 和歌山
同	同
滋賀重罪裁判所	滋賀 滋賀

**第三百三十八條** 給料ヲ得テ人ノ寄託ヲ受ケ保養ス可キ者前條ノ罪ヲ犯シタル時ハ各一等ヲ加フ

**第三百三十九條** 幼者老疾者ヲ遺棄シ因テ廢疾ニ致シタル者ハ輕懲役ニ處シ篤疾ニ致シタル者ハ重懲役ニ處シ死ニ致シタル者ハ有期徒刑ニ處ス

**第三百四十條** 自己ノ所有地又ハ看守ス可キ地内ニ遺棄セラレタル幼者老疾者アルヲ知テ之ヲ扶助セズ又ハ官署ニ申告セザル者ハ十五日以上六月以下ノ重禁錮ニ處ス

管轄	所管轄ノ地方
長野重罪裁判所	長野 長野
同	同
大坂重罪裁判所	大坂 大坂
同	同
京都重罪裁判所	京都 京都
同	同
兵庫重罪裁判所	兵庫 兵庫
同	同
神戶重罪裁判所	神戶 神戶
同	同
和歌山重罪裁判所	和歌山 和歌山
同	同
滋賀重罪裁判所	滋賀 滋賀

**第十節 幼者ヲ畧取誘拐スル罪**

**第三百四十一條** 十二歳ニ滿サル幼者ヲ畧取シ又ハ誘拐シテ自ら藏匿シ若クハ他人ニ交附シタル者ハ二年以上五年以下ノ重禁錮ニ處シ十圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加ス



刑法

刑罰

管轄	六津 彦根始審裁判所
所管轄ノ地方	德島重罪裁判所
同	徳嶋始審裁判所管轄ノ地方
岡山重罪裁判所	岡山 津山始審裁判所
同	所管轄ノ地方
福井重罪裁判所	福井始審裁判所管轄ノ地方
同	石川重罪裁判所
同	金澤 富山 七尾始審裁判所管轄ノ地方
高知重罪裁判所	高知 中村始審裁判所
同	愛媛重罪裁判所

第三百四十二條 十二歳以上二十歳ニ滿サル幼者ヲ畧取シテ自ら藏匿シ若クハ他人ニ交付シタル者ハ一年以上三年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス其誘拐シテ自ら藏匿シ若クハ他人ニ交付シタル者ハ六月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第三百四十三條 略取誘拐シタル幼者ナルコトヲ知テ自己ノ家屬僕婢ト爲シ又ハ其他ノ名稱ヲ以テ之ヲ收受シタル者ハ前二條ノ例ニ照シ各一等ヲ減ス

第三百四十四條 前數條ニ記載シタル罪ハ被害者又ハ其親屬ノ告訴ヲ待テ其罪ヲ論ス但畧取誘拐セラレタル幼者式ニ從テ婚姻ヲ爲シタル時ハ告訴ノ效ナシ

管轄	松山 高松 宇和島 始審裁判所管轄ノ地方
同	長崎 佐賀始審裁判所管轄ノ地方
福岡重罪裁判所	福岡始審裁判所管轄ノ地方
同	熊本始審裁判所管轄ノ地方
大分重罪裁判所	大分 中津始審裁判所
同	鹿兒嶋重罪裁判所
同	鹿兒嶋 宮崎始審裁判所管轄ノ地方

第三百四十五條 二十歳ニ滿サル幼者ヲ畧取誘拐シテ外國人ニ交付シタル者ハ輕懲役ニ處ス

ル罪ナレバ本節ノ中ニ於テモ最モ重シトス加之外國人ニ交付シタル時ハ其誘拐ノ捜索スコト難ク幼者モマタ自カラ獲歸スルヲ得サ



沖繩縣裁判所ノ地方

レハ、罪狀甚ク重シクニシテ、  
レヲ重罪ニ処スルナリ

函館重罪裁判所

第十一節 猥褻及淫重罪ノ罪  
レハ、罪狀甚ク重シクニシテ、  
レヲ重罪ニ処スルナリ

函館始審裁判所管轄ノ地方

行ハス者ニシテ、未ダ至ラズニシテ、  
行ハス者ニシテ、未ダ至ラズニシテ、

開拓使札幌根室本支  
廳管轄ノ地方

或ハ、知者ニ對シテ、淫シクハ、  
或ハ、知者ニ對シテ、淫シクハ、

青森重罪裁判所

テ、知者ノ淫行ヲ、  
テ、知者ノ淫行ヲ、

弘前始審裁判所管轄ノ地方

テ、知者ノ淫行ヲ、  
テ、知者ノ淫行ヲ、

愛知重罪裁判所

テ、知者ノ淫行ヲ、  
テ、知者ノ淫行ヲ、

名古屋 岡崎始審裁判所管轄ノ地方

テ、知者ノ淫行ヲ、  
テ、知者ノ淫行ヲ、

岐阜重罪裁判所

テ、知者ノ淫行ヲ、  
テ、知者ノ淫行ヲ、

岐阜始審裁判所管轄ノ地方

テ、知者ノ淫行ヲ、  
テ、知者ノ淫行ヲ、

三重重罪裁判所

テ、知者ノ淫行ヲ、  
テ、知者ノ淫行ヲ、

安濃津 山田始審裁判所管轄ノ地方

テ、知者ノ淫行ヲ、  
テ、知者ノ淫行ヲ、

宮城重罪裁判所

テ、知者ノ淫行ヲ、  
テ、知者ノ淫行ヲ、

仙臺始審裁判所管轄ノ地方

テ、知者ノ淫行ヲ、  
テ、知者ノ淫行ヲ、

福島重罪裁判所

テ、知者ノ淫行ヲ、  
テ、知者ノ淫行ヲ、

福島 若松 平 白  
川始審裁判所管轄ノ地方

テ、知者ノ淫行ヲ、  
テ、知者ノ淫行ヲ、

警手重罪裁判所

テ、知者ノ淫行ヲ、  
テ、知者ノ淫行ヲ、

盛岡 盤井始審裁判所管轄ノ地方

テ、知者ノ淫行ヲ、  
テ、知者ノ淫行ヲ、

山形重罪裁判所

テ、知者ノ淫行ヲ、  
テ、知者ノ淫行ヲ、

山形 米澤 酒田始  
審裁判所管轄ノ地方

テ、知者ノ淫行ヲ、  
テ、知者ノ淫行ヲ、

秋田重罪裁判所

テ、知者ノ淫行ヲ、  
テ、知者ノ淫行ヲ、

秋田始審裁判所管轄ノ地方

テ、知者ノ淫行ヲ、  
テ、知者ノ淫行ヲ、

廣嶋重罪裁判所

テ、知者ノ淫行ヲ、  
テ、知者ノ淫行ヲ、

廣嶋 尾道始審裁判所管轄ノ地方

テ、知者ノ淫行ヲ、  
テ、知者ノ淫行ヲ、

同

テ、知者ノ淫行ヲ、  
テ、知者ノ淫行ヲ、

同

テ、知者ノ淫行ヲ、  
テ、知者ノ淫行ヲ、

同

テ、知者ノ淫行ヲ、  
テ、知者ノ淫行ヲ、

同

テ、知者ノ淫行ヲ、  
テ、知者ノ淫行ヲ、

同

テ、知者ノ淫行ヲ、  
テ、知者ノ淫行ヲ、



刑罰法

山口重罪裁判所

山口始審裁判所管轄ノ地方

嶋根重罪裁判所

松江 濱田始審裁判所管轄ノ地方

鳥取 米子始審裁判所管轄ノ地方

第七十九号

各裁判所ノ位置及管轄區  
畫ノ儀本年十月第五十三号ヲ以テ布告候處北海道  
函館始審裁判所管内ヲ除ク  
并ニ沖繩縣ノ儀ハ當分  
從前ノ通其管轄ノ官廳ニ  
於テ裁判シ治罪ノ手續モ  
便宜ノ取計ヲ爲ス可シ  
但シ控訴ノ儀北海道ハ函  
館控訴裁判所沖繩縣ハ

長崎控訴裁判所ノ管轄ニ屬ス  
右奉 勅旨布告候事  
明治十四年十二月廿八日  
太政大臣三條實美  
司法卿 大木喬任

第七十九号

各裁判所ノ位置及管轄區  
畫ノ儀本年十月第五十三号ヲ以テ布告候處北海道  
函館始審裁判所管内ヲ除ク  
并ニ沖繩縣ノ儀ハ當分  
從前ノ通其管轄ノ官廳ニ  
於テ裁判シ治罪ノ手續モ  
便宜ノ取計ヲ爲ス可シ  
但シ控訴ノ儀北海道ハ函  
館控訴裁判所沖繩縣ハ  
長崎控訴裁判所ノ管轄ニ屬ス  
右奉 勅旨布告候事  
明治十四年十二月廿八日  
太政大臣三條實美  
司法卿 大木喬任

刑罰法

ヲ爲シタル者トシテ

藥酒等ヲ用ヒ人ヲ昏睡セシメ又ハ精神ヲ錯亂セシメテ姦淫シタル者ハ強姦ヲ以テ論ス

第三百四十九條 十二歳ニ滿サル幼女ヲ姦淫シタル者ハ輕懲役ニ處ス若シ強姦シタル者ハ重懲役ニ處ス

第三百五十條 前數條ニ記載シタル罪ハ被害者又ハ其親屬ノ告訴ヲ待テ其罪ヲ論ス

第三百五十一條 前數條ニ記載シタル罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ毆打創傷ノ各本條ニ照シ重キニ從テ處斷ス但シ強姦ニ

因テ廢篤疾ニ致シタル者ハ有期徒刑ニ處シ死ニ致シタル者ハ無期徒刑ニ處ス

第三百五十二條 十六歳ニ滿サル男女ノ淫行ヲ勸誘シテ媒合シタル者ハ一月以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

刑罰法 第三編 第一章 第十一節 百九



治罪法修訂

第八十号

本年(九月)第四十八号布告

左ノ通改正ス

違警罪ノ儀ハ本年第三十

六号布告ニ據リ明治十五

年一月一日ヨリ治安裁判

所ニ於テ裁判スヘキ處當

分ノ内府縣警察署及、其

分署ニ於テ裁判セシムル

シ

右奉 勅旨布告候事

明治十四年十二月廿八日

太政大臣三條實美

司法卿大木實任

第八十一号

刑法第三條第二項ニ依リ

新舊法ヲ比照スルハ左ニ

從テ可シ

第一條 新舊法比照スル

ニハ左ノ如シ

新法 舊法

一死刑 斬絞

二無期徒刑 懲役終身

三有期徒刑 懲役終身

四無期流刑 禁獄終身

五有期流刑 禁獄終身

六重懲役 懲役十年

七輕懲役 懲役七年

八重禁獄 禁獄十年

九輕禁獄 禁獄七年

十重禁錮 懲役十一

十一輕禁錮 年以下

十二罰金 罰金收賸

十三拘留 懲役禁錮

十四科料 罰金收賸

第二條 舊法ノ刑罰新法

主刑ノ刑罰内ニ在ル時

刑法詳解

者ニ淫事ヲ歌舞シ他人ニ誘シテ其ノ情慾ヲ遂シムル其罪業

甚ク風俗ヲ汚ル可キ者ナレバ本条ノ刑ニ處シタル者トス

第三百五十三條 有夫ノ婦女通シタル者ハ六月以上二年以下ノ重

禁錮ニ處ス其相姦スル者亦同シ

ル婦女人トモ通シタル者ハ其夫ヨリ之ヲ誘ハシメテ

此條ノ罪ハ本夫ノ告訴ヲ待テ其罪ヲ論ス但本夫先ニ姦通ヲ縱容

シタル者ハ告訴ノ效ナシ

第三百五十四條 配偶者アル者重ネテ姦通ヲ爲シタル時ハ六月以

上二年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第十二節 誣告及ヒ誹毀ノ罪

第三百五十五條 不實ノ事ヲ以テ人ヲ誣告シタル者ハ第二百二十

條ニ記載シタル偽證ノ例ニ照シテ處斷ス

第三百五十六條 誣告ヲ爲スト雖モ被告人ノ推問ヲ始メザル前ニ

於テ誣告者自首シタル時ハ本刑ヲ免ス

シテ即チ特別ニ掲ゲタル例(第八十八條)ヲ見ルベシナリトス

ノ意ハ前條ノ如ク一人ヲ誣告シタルト雖モ直チニ其罪ヲ悔悟

シ官ニ於テ未ダ被控人ノ推問ヲ始メザル以前自カラ其罪ヲ

シ官ニ於テ未ダ被控人ノ推問ヲ始メザル以前自カラ其罪ヲ

シ官ニ於テ未ダ被控人ノ推問ヲ始メザル以前自カラ其罪ヲ

シ官ニ於テ未ダ被控人ノ推問ヲ始メザル以前自カラ其罪ヲ

シ官ニ於テ未ダ被控人ノ推問ヲ始メザル以前自カラ其罪ヲ

シ官ニ於テ未ダ被控人ノ推問ヲ始メザル以前自カラ其罪ヲ

シ官ニ於テ未ダ被控人ノ推問ヲ始メザル以前自カラ其罪ヲ

シ官ニ於テ未ダ被控人ノ推問ヲ始メザル以前自カラ其罪ヲ

シ官ニ於テ未ダ被控人ノ推問ヲ始メザル以前自カラ其罪ヲ

シ官ニ於テ未ダ被控人ノ推問ヲ始メザル以前自カラ其罪ヲ

シ官ニ於テ未ダ被控人ノ推問ヲ始メザル以前自カラ其罪ヲ

シ官ニ於テ未ダ被控人ノ推問ヲ始メザル以前自カラ其罪ヲ

シ官ニ於テ未ダ被控人ノ推問ヲ始メザル以前自カラ其罪ヲ

刑法詳解 第三百五十三條 有夫ノ婦女通シタル者ハ六月以上二年以下ノ重禁錮ニ處ス其相姦スル者亦同シ



ハ新法ニ從テ舊法ノ  
刑罰ニ過クルヲ得ズ  
舊法ニ於テ懲役百日ニ  
該ル者新法ニ照シ二月  
以上四年以下ノ重禁錮  
ニ該ル時ハ新法ニ從ヒ  
二月以上百日以下ノ重  
禁錮ニ處スルノ類若シ  
舊法ノ刑罰新法主刑ノ  
短期ニ等シクシテ舊法  
ニ定役ナク新法ニ定役  
アル時ハ舊法ニ從テ舊  
法ニ於テ禁錮三十日ニ  
該ル者新法ニ照シ一月  
以上一年以下ノ重禁錮  
ニ該ル時ハ舊法ニ從テ  
禁錮三十日ニ處スル  
ノ類

第三條 舊法新法ノ刑共  
ニ短期長期アル者ハ其  
短期ノ短キ者ニ從ガフ  
但シ長期ノ短キ者ニ過  
ルヲ得ズ舊法ニ於テ  
一年以上三年以下ノ懲  
役ニ該ル者新法ニ照ラ  
シ三月以上四年以下ノ  
重禁錮ニ該ル時ハ新法  
ニ從ガヒ三月以上三年  
以下ノ重禁錮ニ處スル  
ノ類

若シ舊法新法ノ刑其短  
期等シクシテ舊法ニ定  
役ナク新法ニ定役アル  
時ハ舊法ニ從ガフ舊法  
ニ於テ二月以上三年以  
下ノ禁錮ニ該ル者新法  
ニ照ラシ二月以上二年  
以下ノ重禁錮ニ該ル時  
ハ舊法ニ從ガヒ二月以  
上二年以下ノ禁錮ニ處  
スルノ類

第四條 舊法ノ贖罪收買  
若シハ罰金科刑ノ金額  
新法主刑ノ金額内ニ在  
ル時ハ新法ニ從ガフ  
但シ舊法ノ金額ニ過  
クルヲ得ズ

第五條 舊法新法ノ罰金  
ハ新法ニ從テ舊法ノ  
刑罰ニ過クルヲ得ズ  
舊法ニ於テ懲役百日ニ  
該ル者新法ニ照シ二月  
以上四年以下ノ重禁錮  
ニ該ル時ハ新法ニ從ヒ  
二月以上百日以下ノ重  
禁錮ニ處スルノ類若シ  
舊法ノ刑罰新法主刑ノ  
短期ニ等シクシテ舊法  
ニ定役ナク新法ニ定役  
アル時ハ舊法ニ從テ舊  
法ニ於テ禁錮三十日ニ  
該ル者新法ニ照シ一月  
以上一年以下ノ重禁錮  
ニ該ル時ハ舊法ニ從テ  
禁錮三十日ニ處スル  
ノ類

第三百五十七條 誣告ニ因テ被告人刑ニ處セラレタル時ハ第二  
百二十七條第二百二十二條ニ記載シタル例ニ照シテ處斷ス

第三百五十八條 惡事醜行ヲ摘發シテ人ヲ誹毀シタル者ハ事實ノ  
有無ヲ問ハス左ノ例ニ照シテ處斷ス

第三百五十九條 死者ヲ誹毀シタル者ハ誣罔ニ出タルニ非ザレバ  
前條ノ例ニ照シテ處斷スルヲ得ズ

役ニ該ル者新法ニ照ラ  
シ三月以上四年以下ノ  
重禁錮ニ該ル時ハ新法  
ニ從ガヒ三月以上三年  
以下ノ重禁錮ニ處スル  
ノ類

若シ舊法新法ノ刑其短  
期等シクシテ舊法ニ定  
役ナク新法ニ定役アル  
時ハ舊法ニ從ガフ舊法  
ニ於テ二月以上三年以  
下ノ禁錮ニ該ル者新法  
ニ照ラシ二月以上二年  
以下ノ重禁錮ニ該ル時  
ハ舊法ニ從ガヒ二月以  
上二年以下ノ禁錮ニ處  
スルノ類

第四條 舊法ノ贖罪收買  
若シハ罰金科刑ノ金額  
新法主刑ノ金額内ニ在  
ル時ハ新法ニ從ガフ  
但シ舊法ノ金額ニ過  
クルヲ得ズ

第五條 舊法新法ノ罰金  
ハ新法ニ從テ舊法ノ  
刑罰ニ過クルヲ得ズ  
舊法ニ於テ懲役百日ニ  
該ル者新法ニ照シ二月  
以上四年以下ノ重禁錮  
ニ該ル時ハ新法ニ從ヒ  
二月以上百日以下ノ重  
禁錮ニ處スルノ類若シ  
舊法ノ刑罰新法主刑ノ  
短期ニ等シクシテ舊法  
ニ定役ナク新法ニ定役  
アル時ハ舊法ニ從テ舊  
法ニ於テ禁錮三十日ニ  
該ル者新法ニ照シ一月  
以上一年以下ノ重禁錮  
ニ該ル時ハ舊法ニ從テ  
禁錮三十日ニ處スル  
ノ類

一 公然ノ演說ヲ以テ人ヲ誹毀シタル者ハ十一日以上三月以下  
ノ重禁錮ニ處シ三圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

二 書類畫圖ヲ公布シ又ハ雜劇偶像ヲ作為シテ人ヲ誹毀シタル  
者ハ十五日以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以  
下ノ罰金ヲ附加ス

第三百五十九條 死者ヲ誹毀シタル者ハ誣罔ニ出タルニ非ザレバ  
前條ノ例ニ照シテ處斷スルヲ得ズ

第三百六十條 誣告ニ因テ被告人刑ニ處セラレタル時ハ第二  
百二十七條第二百二十二條ニ記載シタル例ニ照シテ處斷ス

第三百六十一條 惡事醜行ヲ摘發シテ人ヲ誹毀シタル者ハ事實ノ  
有無ヲ問ハス左ノ例ニ照シテ處斷ス

第三百六十二條 死者ヲ誹毀シタル者ハ誣罔ニ出タルニ非ザレバ  
前條ノ例ニ照シテ處斷スルヲ得ズ











前手續ニ照準ス可シ  
私ニ曰ク蓋シ明治十  
年第十九号法律手續  
ノ御布告ハ竊取ノ未  
ニ記載ルナリ之ニ尤  
抄ス可シ

明治十五年御布告

第壹号

治罪法第三百八十一條第

一項ニ若シ辯護人ナクシ  
テ辯論ヲ爲シタル時ハ刑  
ノ言渡シノ效ナカルヘシ  
ト有之候得共其裁判所所  
屬ノ代官人無之場所ニ於  
テハ當分ノ内辯護人ヲ用  
ヒサルモ其刑ノ言渡ハ無  
效ノ限リニ在ラズ

右奉 勅旨布告候事  
明治十五年一月九日

太政大臣 三條實美  
司法卿 大木喬任

第七号

治罪法第十九條第二項海

上路程ノ猶豫ハ陸路四里  
ノ割合ヲ以テ一日ヲ加フ  
ルモノト定ム

右奉 勅旨布告候事  
明治十五年二月一日

太政大臣 三條實美  
司法卿 大木喬任

明治十四年御布告

第二号

本年十月第五十三号布告  
ニテ以テ各裁判所ノ位置及  
ビ管轄ノ區畫改正ニ付テ  
ハ從前布告布達中ノ上等裁  
判所トアルハ控訴裁判所  
地方裁判所トアルハ控訴  
裁判所區裁判所トアルハ  
治安裁判所ト改マリ候儀  
ト心得可シ  
右布達候事  
明治十四年十二月廿八日

太政大臣 三條實美  
司法卿 大木喬任

第八十二号御達

治罪法條

第二章 凡テ十節 五十九條 財産ニ對スル罪

第一節 竊盜ノ罪

凡テ十節 五十九條 財産ニ對スル罪  
ヲ總テ包括スル者ニシテ一切ノ所有物  
ハ竊盜ニ對シテ犯セル諸般ノ罪ヲ記載  
スル者トス  
第一節 竊盜ノ罪  
三去ル者ヲ云フ假令其ヲ奪フトモ  
ヲ用ヒザル時ハ總テ之ヲ竊盜トスルナリ

第三百六十六條 入ノ所有物ヲ竊取シタル者ハ竊盜ノ罪トナシニ

月以上四年以下ノ重禁錮ニ處ス

本條ノ意ハ他人ノ所有物  
ヲ竊取スル者ヲ指シ又ハ他人ノ所有物  
ニテ所謂大抵神物  
官有物及ビ家長等凡テ他人ノ所有ニ屬スル物品ニシテ所謂大抵神物  
但シ其コレヲ犯スニ畫問支問區別ナク又夕家屋ノ内外ニ拘ハラズ  
捕獲モ亦此條ニ包括スル者トス○本條ノ禁錮ニ罰金ノ付如ナキ  
者ハ犯ニ盜犯ヲ爲ス如キ者ハ固ヨリ財物ヲ  
所有スルノ理ナシト音敵シタルカ故ナリ

第三百六十七條 水火震災其他ノ變ニ乘シテ竊盜ヲ犯シタル者ハ

六月以上五年以下ノ重禁錮ニ處ス

本條ハ水火震災其他ノ變ニ乘シテ竊盜ヲ犯シタル者ハ  
ハ難シクハ其罪狀等ノ災者  
ニ付込ミ竊盜ヲ犯ス者ヲ云フカハル場合ニハ共ニ其罪苦ヲ憫シ  
ムヘキハ入ノ通情ナルニ於テ之レニ兼シテ惡行ヲ勵ク其罪狀甚  
ダ惡ム可キナリ故ニ通情竊盜ノ罪  
ヨリ其罪ヲ重クシテ罰スル者トス

第三百六十八條 門戶牆壁ヲ踰越損壞シ若クハ鎖鑰ヲ開キ邸宅倉

庫ニ入り竊盜ヲ犯シタル者ハ亦前條ニ同シ

本條モ同シク  
凡テ門戶牆壁ヲ打越ヘ或ハ之レヲ破損シ又ハ鎖鑰ヲ開キ  
邸宅倉庫ニ入り竊盜ヲ犯スル者ハ亦前條ニ同シ  
總切リ若クハ門戶牆壁ヲ打越ヘ或ハ之レヲ破損シ又ハ鎖鑰ヲ開キ  
邸宅倉庫ニ入り竊盜ヲ犯スル者ハ亦前條ニ同シ  
シタル如キハ彼ノ物品ノ目ノ觸レタルヨリ忽チ盜心ヲ起シタル  
者ノ比ニアラズ所爲甚ダ重キヲ以テ前條ノ罪狀惡ムヘキ者ト同  
シルナリ

第三百六十九條 二人以上共ニ前二條ノ罪ヲ犯シタル者ハ各一等

ヲ加フ  
シタルニ於テハ之ヲ防グテ殆ンド難ク其罪狀更ニ重キ者トス  
ニ格一等ヲ加フ  
於テ二人以上ノ人共ニ之ヲ犯シタル時ハ其本罪ニ一等ヲ加ヘ  
二月十五日以上五年以下ノ重禁錮 ○第三百六十七條同ク第三  
百六十八條ノ場合ニ於テ二人以上ノ人共ニ之ヲ犯シタル時ハ其本罪  
ヲ加ヘテ七月十五日以上六年三月以下ノ重禁錮ニ處スルナリ

川法釋解 第三編 第二章 第一節 百十四



司法官吏ヨリ巡査及ヒ兵  
員ヲ要求使用スルニハ左  
ノ手續キニ從フヘシ

此旨相達候事

第一條 裁判官檢察官及  
司法警察官治罪法ニ從  
ヒ檢査及ヒ物件差押其  
他職務ヲ行フニ當リ必  
要ナル時ハ警察署又ハ  
憲兵中營ニ照會シテ巡  
査又ハ憲兵卒ヲ使用ス  
ルコトヲ得

但時機緊急ナル時ハ直  
チニ之ヲ使用スルコトヲ  
得

第二條 前條ノ場合ニ於  
テ重要緊要重要ニ涉ル時  
ハ直チニ偵査又ハ分營  
ニ照會シテ兵力ヲ要求  
スルコトヲ得

第八十六號御達

治罪法實施ニ付テハ大審  
院其他各裁判所公廷取締  
ノ使用ニ供スルタノ其院

長所長ノ照會ニ應シ一名  
又ハ數名ノ巡査爲相詰又  
拘留被告人審問中ハ其護  
送ノ巡査或ハ押丁ヲシテ  
守卒トシテ公廷ニ入り看  
護セシムヘシ此旨相達候  
事

明治十五年告示

明治十四年第五十三号布  
告裁判所一覽表中何ヤノ  
内ト掲載有之區郡中其町  
村名別紙之通候條此旨告  
示候事

明治十五年二月三日  
司法卿 大水喬任

○控訴手續ノ事

明治十年二月第十九号御布  
告控訴手續

第一條 凡ソ地方裁判所  
ノ初審ニ服セスシテ再  
上ニ等裁判所ニ訴ヘ登  
審ヲ求ムル者之ヲ控訴  
ト云フ

第三百七十條 兇器ヲ携帶シテ人ノ住居シタル邸宅ニ入り竊盜ヲ  
犯シタル者ハ輕懲役ニ處ス

ハタル時ハ人ヲ恐怖セシムルコトヲ前條ノ比ニアラズ故ニ之レヲ  
重罪トシテ第三百七十八條ノ例ニ從テ之ヲ處スルコトナリ  
ニ處スルナリ 若シ兇器ヲ携帶シタル者ハ本條ノ刑ヲ科セズ第三百六十六條  
ノ罪ニ處スル可カラズ但シ人ノ住居シタル邸宅ニ入り竊盜ヲ犯シタル者ハ  
ノ罪ニ處スル可カラズ但シ人ノ住居シタル邸宅ニ入り竊盜ヲ犯シタル者ハ  
ト同ノ罪ニ處スル可キ者ナリトス

第三百七十一條 自己ノ所有物ト雖モ典物トシテ他人ニ交付シ又  
ハ官署ノ命令ニ因リ他人ノ看守シタル時之ヲ竊取シタル者ハ竊  
盜ヲ以テ論ス

ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處ス

第三百七十二條 田野ニ於テ穀類茶葉其他ノ產物ヲ竊取シタル者

ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處ス

第三百七十三條 山林ニ於テ竹木礦物其他ノ產物ヲ竊取シ又ハ川

澤池沼湖海ニ於テ人ノ生養シ若クハ營業ニ關スル產物ヲ竊取シ

タル者ハ亦前條ニ同シ

第三百七十四條 牧場ニ於テ牧畜ノ獸類ヲ竊取シタル者ハ二月以



刑罰法

刑罰法

第二條 控訴ハ民事ニ止マリ刑事ニ及バズ

第三條 控訴ハ一タヒスルコトヲ得再ビスルコトヲ得ズ

第四條 地方裁判所ニ於テ裁判ノ言渡ヲ爲シタル時原告被告ノ雙方又ハ一方ノ者其裁判ニ不服ナル時ハ裁判官渡シヨリ第七日迄ニ裁判官渡シヨリ數日ニ裁判官渡シノ事ヲ熟考シ其翌日ニ至リ控訴スルコトヲ得ベシ但シ訴訟ノ案件商事ニ係リ急速ニ控訴スルコトヲ要スルノ場合ニ於テハ七日内ト雖モ控訴スルコトヲ得

第五條 地方裁判所ノ裁判官渡後三ヶ月三十日ヲ以テ一月トスル過ル時ハ控訴スルコトヲ許サズ但シ地方裁判所ヨリ

上二年以下ノ重禁錮ニ處ス

タル罪ヲ云フ此罪ハ前二條ノ田野山林等ニ於テ竊取シタル者ト異ニシテ其罪狀稍ヤ重シ故ニ其刑期ヲ前條ニ倍シテ罰スル者トス但シ若シ他人ノ邸宅園地内ヨリ竊取ル如キハ通常ノ竊盜ヲ以テ論ス可キ者トス

第三百七十五條 此節ニ記載シタル輕罪ヲ犯サントシテ未ダ遂ゲザル者ハ未遂犯罪ノ例ニ照シテ處斷ス

ハ未遂犯罪ノ時ト雖モ必ラス之レヲ不問ニ措ク可カラザル者タルコトヲ示セルナリ即チ總則第百十二條ニ照ラシテ二遂ゲタル本刑ニ一等又ハ二等ヲ減スル者トス

第三百七十六條 此節ニ記載シタル罪ヲ犯シ輕罪ノ刑ニ處スル者ハ六月以上二年以下ノ監視ニ付ス

注釋 監視ニ付スル者ハ本條モ又此節ニ記載シテ刑罰限ノ後ハ必ラス之ヲ監視ニ付ス可キ者タルコトヲ示セルナリコレ竊盜犯ノ如キハ大概性質ノ惡シキ者ナレバナリ

第三百七十七條 祖父父母夫妻孫及ビ其配偶者又ハ同居ノ兄弟姉妹互ニ其財物ヲ竊取シタル者ハ竊盜ヲ以テ論ズルノ限ニ在ラス

注釋 本條ニ掲グル祖父父母兄弟姉妹及ビ其配偶者又ハ同居ノ兄弟姉妹等ハ親屬ニシテ其財物ヲ竊取ル者トシテ其刑罰ノ輕重ハ竊盜ノ罪ニ依リテ定ムルノ限ニ在ラス但シ其財物ヲ竊取ル者ハ竊盜ノ罪ニ依リテ定ムルノ限ニ在ラス

上等裁判所ニ至ルノ距離八里ヨリ遠キ時ハ期限三ヶ月ノ外八里毎ニ一日ノ猶豫ヲ増ス可シ

第六條 控訴ヲ爲ス者ハ其初審ヲ受ケタル地方裁判所ニ届ケ出ツ可シ但シ添附ヲモ二及ハス

第七條 前條ノ届ケ受ケ取リタル地方裁判所ハ裁判官渡ノ執行ヲ停止ス可シ若シ上等裁判所ノ請求アル時ハ地方裁判所ニ於テ訴狀答書口書裁判見込等ヲ差出ス可シ

第八條 上等裁判所ニ據クル訴狀ハ訴答文例ニ照準スベシ

若シ他人共ニ犯シテ財物ヲ分チタル者ハ竊盜ヲ以テ論ズ

注釋 此項ノ竊盜ハ竊盜ノ罪ニ依リテ定ムルノ限ニ在ラス但シ其財物ヲ竊取ル者ハ竊盜ノ罪ニ依リテ定ムルノ限ニ在ラス

若シ他人共ニ犯シテ財物ヲ分チタル者ハ竊盜ヲ以テ論ズ

注釋 此項ノ竊盜ハ竊盜ノ罪ニ依リテ定ムルノ限ニ在ラス但シ其財物ヲ竊取ル者ハ竊盜ノ罪ニ依リテ定ムルノ限ニ在ラス



取受シ若クハ寄藏故買セシ者ノ如キハ固ヨリ  
罪ナリトス 參看 第三百九十九條四百一條

第二節 強盜ノ罪

第三百七十八條 人ヲ脅迫シ又ハ暴行ヲ加ヘテ財物ヲ強取シタル者ハ強盜ノ罪ト爲シ輕懲役  
ニ處ス 註譯 本條ノ意ハ、脅迫ヲ爲シ暴行ヲ加ヘテ他人ノ所有物ヲ奪ヒ取ル者ヲ強盜ノ罪ト  
ナシ、其ノ所行ノ甚ダ社會ノ解體ヲ害ス可キ者ナレバ、強盜ニ比シテハ其刑ヲ重クシ之レ

第三百七十九條 強盜左ニ記載シタル情狀アル者ハ一個毎ニ一等ヲ加フ 註譯 本條ハ強盜ノ  
罪狀即チ前條ノ第一ノ  
項ヲ犯シテハ、更ラ二重キヲ以テ、其刑ヲ加重シテ罰ス可キヲ云フ。○乃チ左ニ記載シタル第一  
項ヲ犯ス者並ヒ二項ヲ犯ス者ハ各一個ノ罪狀アル毎ニ、其本刑ニ一等ヲ加フルノ法ナリ、  
故ニ若シ第一項ノ罪狀ヲ兼テ犯ス者アル時ハ二項以上ニシテ、其刑ヲ加重スル者コレナリ、  
勿レニ若シ第二項ノ罪狀ヲ兼テ犯ス者アル時ハ二項以上ニシテ、其刑ヲ加重スル者コレナリ、  
一 二人以上共ニ犯シタル時 註譯 此項ノ如ク強盜ニ人  
以上ニシテ之ヲ犯スル者ハ、其本刑ニ一等ヲ加ヘテ之ヲ加重スルノ法ナリ、故ニ三人以上ニシテ  
共ニ犯シタル時ハ、其本刑ニ一等ヲ加ヘテ之ヲ加重スルノ法ナリ、故ニ三人以上ニシテ

二 兇器ヲ携帶シテ犯シタル時 註譯 此項ノ如ク強盜ヲ犯シテ之ヲ犯スル者ハ、其本刑ニ一等ヲ加ヘテ之ヲ加重スルノ法ナリ、故ニ三人以上ニシテ  
共ニ犯シタル時ハ、其本刑ニ一等ヲ加ヘテ之ヲ加重スルノ法ナリ、故ニ三人以上ニシテ  
タリトモ、持兇器ノミヲ以テ前項ニ人  
以上ニシテ之ヲ犯スル者ハ、其本刑ニ一等ヲ加ヘテ之ヲ加重スルノ法ナリ、故ニ三人以上ニシテ  
タザル刑ト同シク一等ヲ加ヘテ之ヲ加重スルノ法ナリ、故ニ三人以上ニシテ

第三百八十條 強盜人ヲ傷シタル者ハ無期徒刑ニ處シ死ニ致シタル者ハ死刑ニ處ス 註譯 本  
強盜ヲ行ヒ且ツレガ爲メニ人ヲ死傷ニ致ス如キハ其情狀最モ重ク最モ惡ムベキナリ故ニ強  
盜人ヲ傷シタル時ハ人數ノ多寡ト損傷ノ輕重トヲ問ハズ且ツ兇器ノ有無ニ拘ハラズ強盜ニ  
之レヲ無期ノ徒刑ニ處シ死ニ致シタル時ハ殺意ノ有  
無ヲ論ゼズ同シク之レヲ死刑ニ處スル者トスルナリ

第三百八十一條 強盜婦女ヲ強姦シタル者ハ無期徒刑ニ處ス 註譯 本條ノ如ク、已ニ強盜ノ罪  
ヲ強姦スル其ノ所行ノ兇惡ナル之ヨリ甚ダシキハナク、強姦最モ惡ム可キ者ナリト  
ス故ニ強姦ノ成否ヲ論ゼズ財物ノ得不得ニ拘ハラズ之ヲ無期徒刑ニ處スルナリ

第三百八十二條 竊盜財ヲ得テ其取還ヲ防グ爲メ臨時暴行脅迫ヲ爲シタル者ハ強盜ヲ以テ論  
ス 註譯 本條ハ竊盜ヲ犯シテ遂ニ強盜罪トナルヲ云フ、然レテ竊盜他ノ財物ヲ盜スミ得タル後  
其ノ主ニ之レヲ知覺セラレ、其財物ヲ取戻サントスルヲ拒ガシメ、強盜ノ暴行脅迫ヲ爲シタル者ハ強盜  
ヲ加ヘタル時ハ其所爲已ニ強盜トナルヲ以テ第三百七十八條第三百七十九條第三百八十條ニ  
據グル所ノ刑ニ照シテ、其罪ヲ處斷ス可キ者トスルナリ 參看 第三百七十八條第三百七十九  
條三百  
八十條

第三百八十三條 藥酒等ヲ用ヒ人ヲ醉送セシメ其財物ヲ強取シタル者ハ強盜ヲ以テ論シ輕懲  
役ニ處ス 註譯 本條ハ藥酒ハ酒類ノ用ヒテ人ヲ醉送シテ其財物ヲ強取シタル者ハ強盜ヲ以テ論シ輕懲  
テ、其財物ヲ強取シタル者ハ強盜ヲ以テ論シ輕懲役ニ處スルノ法ナリ、故ニ強盜ト同刑ニ處ス  
ルナリ 參看 第三百  
四十八條三百七十八條



第三百八十四條 此節ニ記載シタル罪ヲ犯シ減輕ニ因テ輕罪ノ刑ニ處スル者ハ六月以上二年

以下ノ監視ニ付ス 註釋 本條ノ意ハ此節ニ掲ゲタル諸罪ハ輕ニモ重罪ナレバ監視ニ付ス

ニ際ルノ場合モ仍ホ監視ニ付ス可キ者タルコトヲ示セルナリ 參看 第三十四條三十八條四十條

第三節 遺失物理藏物ニ関スル罪 註釋 此節ハ遺失漂流埋藏等ノ物品ヲ拾得

テ直チニ盜犯ト爲スベカラズ故ニ此節ヲ設ケテ強盜ニ關シ其處分ヲ別ニ

第三百八十五條 遺失及ヒ漂流ノ物品ヲ拾得テ隱匿シ所有ニ還付セス又ハ官署ニ申告セザ

ル者ハ十一月以上三月以下ノ重禁錮ニ處シ又ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

註釋 流ノ物品ニハソレク規則アリテ其遺失ノ原因ハ之ヲ遺失シ若シ不分明ナレバ之ヲ官署

ニ申告ス可キ者トス然ルニ之ヲ拾得テ現ニ所有シタルヲ知リテ之ヲ還付セズ又ハ官署

ニ知レザル時之ヲ官署ニ申告セズ自ラ秘密ニ藏匿シタル者ハ之ヲ檢査ノ時ハ十一月以上

三月以下ノ重禁錮ニ處スルカニ依リテ罰金ニ處スルカハ法律ノ意見ヲ以テ之ヲ定メ

ニカ其ノ一ヲ選ンズ之ヲ科スベキ者トス〇但シ遺失物規則ニ於テ拾得シタル物品ヲ其ノ

物規則ニ於テモ其所有至一年以内ニ知レザル時ハ之ヲ拾得タル者ニ全給スルノ法(遺失物規則)モ又之レニ同じナリ

第三百八十六條 他人ノ所有地内ニ於テ埋藏ノ物品ヲ掘得テ隱匿シタル者ハ亦前條ニ同じ

註釋 本條ノ如ク人ノ地内ニ於テ埋藏ノ物品ヲ掘得タルハ同ヨリ其至ノ不分明ナル物ヲ

リ故ニ其規則ニ於テ之ヲ官署ニ差出シ地主ト交渉セムベキモノトス然ルニ之ヲ能ク之ヲ

ナク自ラ隱匿シタル者ハ罪狀前條ノ遺失漂流ノ物品ヲ掘得シタル者ト異ナラズ仍テ其罰ニ處スルナリ

第三百八十七條 此節ニ記載シタル罪ヲ犯シタル者第三百七十七條ニ掲ゲタル親屬ニ係ル時

ハ其罪ヲ論ゼス 註釋 前二條ニ掲ゲタル遺失及ヒ漂流ノ物品ヲ掘得又ハ埋藏ノ物品ヲ掘得テ

親屬ニハ其罪ヲ減軽ニ係ル時ハ其罪ヲ問ハザル 參看 第三百七十七條三十九條

第四節 家資分散ニ関スル罪 註釋 本節ノ罪ハ家資分散即チ身代ノ處分ヲ

家資分散ニ關スル者ノ罪ヲ掲ゲタルナリ 註釋 家資分散ニ關スル者ノ罪ヲ掲ゲタルナリ

第三百八十八條 家資分散ノ際其財産ヲ藏匿脱漏シ又ハ虛偽ノ負債ヲ増加シタル者ハ二月以

上四年以下ノ重禁錮ニ處ス 註釋 家資分散ノ際其財産ヲ藏匿脱漏シタルハ其罪ヲ

シ其罪ニ非ズ可キ者トス然レバ其罪ヲ問ハザル 註釋 家資分散ノ際其財産ヲ藏匿脱漏シタルハ其罪ヲ

ラシハ其罪ノ重キ者トス又ハ其罪ノ重キ者トス又ハ其罪ノ重キ者トス又ハ其罪ノ重キ者トス

但シ其罪ノ重キ者トス又ハ其罪ノ重キ者トス又ハ其罪ノ重キ者トス又ハ其罪ノ重キ者トス

家資ヲ分散スルニ至ル如キ者ナレバ罰金ヲ科ス可キ者トス又ハ其罪ノ重キ者トス

台 刑法 第三編 第二章 第四節 百十八







同刑ナル、二月以上四年以下ノ重禁錮ニ處シ、  
四圓以上四十圓以下ノ罰金ヲ附加スル者トス

第三百九十三條 他人ノ動産ノ不動産ヲ冒認シテ販賣交換シ入ハ抵當典物ト爲シタル者ハ詐欺  
取財ヲ以テ論ス 註釋 此項ノ如ク、他人ノ所有スル物品(動産家産)無山採集、或ハ取財物トシテ、  
シテ、其利益ヲ得タル者ハ、亦詐欺取財ニ異ナラズ、然レモ、第三百九十四條ノ同シク、二日以  
上四年以下ノ重禁錮ニ處シ、四圓以上四十圓以下ノ罰金ヲ附加スル者トス

自己ノ不動産ト雖モ己ニ抵當典物ト爲シタルヲ欺隱シテ他人ニ賣與シ又ハ重テ抵當典物  
ト爲シタル者亦同シ 註釋 此項ハ、所謂ニ重典賣ノ罪ヲ云フ、自己ノ所有スル不動産ノリ  
ル所ハ己ニ他人ニアリトス、然ルニ之ヲ隱秘シテ更ニ他人ヲ欺キ、賣與シ、或ハ重テ抵當  
若クハ典物ト爲シタル時ハ、詐欺取財ト異ナル所ナレバ、前項ノ刑ト同シク、其動産ヲ云ハズ、  
ハ、動産ノ抵當者クハ典物ハ、必ラズ之レヲ、賣與シ、手ニ預リ置モノナレバ、重テ之ヲ他ニ抵當  
若クハ典入スル得ザレハナリ 参考  
第三百七十一條 第三百九十六條

第三百九十四條 前數條ニ記載シタル罪ヲ犯シタル者ハ六月以上二年以下ノ監視ニ付ス 註釋  
ノ意ハ、前條第三百九十四條ヨリ、前條迄ノ罪犯ハ、輕罪ナレバ、人ヲ欺キ、取財、其動産ヲ欺  
ベキナリ、故ニ六月以上二年以下ノ監視ニ付シテ、其ノ再犯ヲ豫防スル者トス。但シ、第三百九  
十五條、第三百九十六條ノ如キハ、受寄ノ財物ニ關スル罪ニシテ、詐欺取財  
ニアラザレバ、之ヲ監視ニ付スルナシ、故ニ本條ヲ認メタルナリ

第三百九十五條 受寄ノ財物借用物又ハ典物其他委託ヲ受ケタル金額物件ヲ費消シタル者ハ  
一月以上二年以下ノ重禁錮ニ處ス若シ騙取拐帶其他詐欺ノ所爲アル者ハ詐欺取財ヲ以テ論ス  
註釋 本條ノ如ク、他人ヨリ寄託セラレタル財物借用物又ハ典物トシテ預リ置タル物品其他利  
任稱認ヲ受ケタル金額或ハ物件等ヲ自ラニ費用消耗シタル者ハ、甚ダ不良ノ所行ナリト取  
已レノ手ニアル財物ナレバ詐欺シテ他人ノ財物取リタルトハ、其罪大ニ、蓋シテ、故ニ  
前數條ヨリ其刑ヲ輕クス、然レモ、若シ其人ヲ欺騙シ、或ハ恐喝シテ騙取ルル者、或ハ委託ノ財  
物ヲ拐帶シ、其他詐欺ノ所爲(或ハ水火ニ罹リ盜犯ニ遭ヒ又ハ遺失シタルト謂フ)モ、或ハ自己ノ  
財物ナリト冒認シテ他ニ典入賣與スルノ類)アル時ハ、假令受寄ノ財物ナルモ、詐欺取財ニ異ナ  
サレハ、第三百九十四條ノ同シク、二年以上四年以下ノ重禁  
錮、四圓以上四十圓以下ノ罰金ニ處スル者トスルナリ

第三百九十六條 自己ノ所有ニ係ルト雖モ官署ヨリ差押ヘタル物件ヲ藏匿脱漏シタル者ハ一  
月以上六月以下ノ重禁錮ニ處ス但家資分散ノ際此罪ヲ犯シタル者ハ第三百八十八條ノ例ニ  
照シテ處断ス 註釋 本條ノ如ク、官署ヨリ家財ヲ差押ヘラレタル時ハ、假令己ノ所有物ナリ  
典入債或ハ換領消滅等シタルニ於テハ、即チ本條記載ノ罪ニ處ス但本條ハ、一經ノ差押ヘラ  
云フ者ニシテ、家資分散ノ差押ヘトハ、異ナリ、故ニ分散ノ際ニ於テ此罪ヲ犯シタル者ハ、其罪ノ  
及テ所大ヒナルヲ以テ、第三百八十八條ノ例ニ照シ、二月以上四年以下ノ重禁錮、情ヲ知テ處断  
ノ契約ヲ承諾シ若シハ其媒介ヲ爲シタル者ハ、一月十五日以上三年以下ノ重禁錮ニ處スル者トス

第三百九十七條 此節ニ記載シタル罪ヲ犯サントシテ未ダ遂ゲザル者ハ未遂犯罪ノ例ニ照シ







ルヲ知り故意ヲ以テ火ヲ其家屋ニ放テ燒燬シタル者ヲ云フコレ人ノ身財トシテ  
ヲ加フルノ惡念アル者ナレバ之ヲ死罪ニ處スルナリ但シ未ダ燒燬ニ至ラザル場合ハ未  
犯罪ヲ以テ論ジ減等ヲ得ベシ○人ノ住居シタル家屋トハ現居人ノ之レニ居ル所ヲ云フ故ニ  
晝間ハ人ノ居レテ夜間ニ至テハ人ノ居ラザル場所(即チ學校會議所説教所又ハ演劇場  
露酒等ノ類ハ其時間ニ於テ住居不仕居ノ時アルベシ故ニ晝間ニ於テ此等ノ場所ニ放火シタ  
ル時ハ本條ノ罪犯トナレトモ若シ夜間不仕居ノ時ナレバ及チ晝間ニヨルベキナリ○燒燬ト  
トハ火燄已ニ屋上ニ炎ヘテ幾人並燃焼火ヲ噴ハルヲ以テ燒燬シタル者  
トスルナリ 參看 第十二條 第十六條 第三十九條 第五十八條 第六十二條

第四百三條 火ヲ放テ人ノ住居セザル家屋其他ノ建造物ヲ燒燬シタル者ハ無期徒刑ニ處ス  
〔註譯〕 本條ハ人ノ住居セザル家屋其他ノ建造物ニ放火シタル者ナレバ決シテ人ノ身財ヲ害  
スベキノ惡意アルニ非ズ止テ財產ニ對シテ害ヲ加ヘントシタルニアレバ其罪狀亦奈ニ比シ  
テハ輕シ故ニ假令人ノ住居シタル家屋ニ燒燬シタルト否トニ拘ハラハ之ヲ無期徒刑ニ處ス  
○人ノ住居セザル家屋トハ平常人ノ之ニ住セザル船(即チ空屋)野茶店等ノ類ヲ云フ○其他  
ノ建造物トハ土藏及ビ浴室ノ類  
コレナリ 參看 第三十九條

第四百四條 火ヲ放テ廢屋及ビ柴草肥料等ヲ貯フル屋舎ヲ燒燬シタル者ハ重懲役ニ處ス  
〔註譯〕 條ノ如クモノハ其情更ラニ能クヨリ輕シ何ントナレハ燒燬シテ人ノ住居スベカラザル廢屋  
及ビ柴草肥料ノ類ヲ貯ヘ置ク小屋ノ類キハ固ヨリ人ノ之ニ住居スベキ貯ニアラズ又或  
物件ヲ保存スベキ貯ニモアラザレバ前二條ノ所犯トハ尤ヒニ異ナル也アリ  
ニ之ヲ重懲役ニ處ス 參看 第十二條 第三十七條 第四十條 第四十一條 第六十條

第四百五條 火ヲ放テ人ヲ乗載シタル船舶汽車ヲ燒燬シタル者ハ死刑ニ處ス  
〔註譯〕 此項ノ如  
ル船舶若クハ汽車ニ燒燬スル者ハ其情更ラニ能クヨリ輕シ何ントナレハ燒燬シテ人ノ住居スベカラザル廢屋  
何トナレバ船舶汽車ニ火ヲ放ツテハ之ニ乗組ミ居ル人ハ其死ヲ避クベキ路ナク必然燒燬セ  
ラルベキナリ故ニ假令之ヲ死ニ致スナキモ亦死罪ニ處スル  
者トス 參看 第十二條 第十三條 第十四條 第十五條 第十六條 第三十九條

其ノ人ヲ乗載セザル船舶汽車ニ係ル時ハ重懲役ニ處ス  
〔註譯〕 若シ此項ノ如ク人ヲ乗載セザル  
ル者ハ固ヨリ人ヲ害スベキ惡念アルニアラス其犯情前項ヨリ重キヲ以テ前條ト同刑  
ナル重懲役ニ處スルナリ 參看 第三十七條 第四十條 第四十一條 第六十條 第六十五條 第六十六條

第四百六條 火ヲ放テ山林ノ竹木田野ノ穀麥又ハ露積シタル柴草竹木其他ノ物件ヲ燒燬シ  
ル者ハ輕懲役ニ處ス  
〔註譯〕 本條ノ如ク山中林間ニ於テ燒燬シタル所ノ竹叢樹木及ビ田野  
積シタル柴草竹木其他ノ物件ニ火ヲ放テ燒燬シタル者ハ之ヲ輕懲役ニ處スコレ等ノ物件ハ  
固ヨリ屋内ニ貯ヘタル物ニアラザレバ其罪狀モ亦輕キヲ以テナリ 參看 同上

第四百七條 火ヲ放テ自己ノ家屋ヲ燒燬シタル者ハ二月以上二年以下ノ重禁錮ニ處ス  
〔註譯〕 第四百  
二條ヨリ前條マデハ他人ノ所有物ヲ燒燬シタル罪ニシテ本條ハ即チ自己ノ所有ノ家屋ヲ燒燬  
シタル罪ナリ故ニ其刑モ及輕ク二月以上二年以下ノ重禁錮トス○但シ本條ノ罪ハ他人ノ家屋ニ及  
ビレノ家屋ヲ燒燬スルノ意ニ出デハ火ヲ放チタル者ナレバ假令其家屋ノ為メ他人ノ家屋ニ及  
ボシアリト雖モ仍ホ本條ノ刑ニ止ルベシ然レトモ備前條ノ得テ其家屋ヲ他人ニ貸シ與  
タル時ハ自己ノ所有ト雖モ他人ノ家屋トナルコト無キ都トス  
參看 第二十四條 第五十八條 第六十二條

第四百八條 放火ノ罪ヲ犯シ輕罪ノ刑ニ處スル者ハ六月以上二年以下ノ監視ニ付ス  
〔註譯〕 放  
火ノ罪ヲ



第四百九條 火ヲ失シテ人ノ家屋財産ヲ燒燬シタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第四百十條 火藥其他激發ス可キ物品又ハ煤氣并蒸氣罐ヲ破裂セシメテ人ノ家屋財産ヲ毀壞シタル者ハ其故意ニ出ルト過失トヲ分チ放火失火ノ例ニ照シテ處斷ス

第四百十一條 堤防ヲ決潰シ又ハ水閘ヲ毀壞シテ人ノ住居シタル家屋ヲ漂流シタル者ハ無期徒刑ニ處ス

第四百十二條 堤防ヲ決潰シ水閘毀壞シテ田圃礦坑牧場等ヲ荒廢シタル者ハ輕懲役ニ處ス

第四百十三條 他人ノ便益ヲ損ジ又ハ自己ノ便益ヲ圖ル爲メ堤防ヲ決潰シ水閘ヲ毀壞シ其他

第八節 決水ノ罪

第四百十四條 決水ノ罪

第四百十五條

第四百十六條

第四百十七條

第四百十八條

第四百十九條

第四百二十條

第四百二十一條

第四百二十二條

第四百二十三條

第四百二十四條



氷利ヲ妨害シタル者ハ一月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第四百十四條 過失ニ因テ水害ヲ起シタル者ハ失火ノ例ニ照シテ處斷ス

第九節 船舶ヲ覆没スル罪

第四百十五條 衝突其他ノ所爲ヲ以テ人ヲ乗載シタル船舶ヲ覆没シタル者ハ死刑ニ處ス但船舶中死亡ナキ時ハ無期後刑ニ處ス

第四百十六條 前條ノ所爲ヲ以テ人ヲ乗載セザル船舶ヲ覆没シタル者ハ輕懲役ニ處ス

第十節 家屋物品ヲ毀壞シ及ビ動植物ヲ害スル罪

第四百十七條 人ノ家屋其他ノ建造物ヲ毀壞シタル者ハ一月以上五年以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第四百十八條 人ノ家屋其他ノ建造物ヲ毀壞シタル者ハ一月以上五年以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第四百十九條 人ノ家屋其他ノ建造物ヲ毀壞シタル者ハ一月以上五年以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第四百二十條 人ノ家屋其他ノ建造物ヲ毀壞シタル者ハ一月以上五年以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス



因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ毆打創傷ノ各本條ニ照シ重キニ從テ處斷ス  
ヲ毀壞シ、ソレガ爲メニ人ヲ死傷ニ致シタル時ハ、第二百九十九條以下ノ  
照シ其犯罪ノ情狀ニヨリ、本條ノ罪重キ時ハ本條ノ刑ニ處テ、毆打創傷ノ各本條ノ罪重キ時ハ  
毆打創傷ノ各本條ノ刑ニ處テ、重キ  
ガニ從テ處斷スルヲ云フナリ

第四百十八條 人家屋三屬スル牆壁及ビ園池ノ裝飾又ハ田圃ノ樊圍牧場ノ柵欄ヲ毀壞シタ  
ル者ハ十一月以上三月以下ノ重禁錮ニ處シ又ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第四百十九條 人ノ稼穡竹木其他需用ノ植物ヲ毀損シタル者ハ十一月以上六月以下ノ重禁錮  
ニ處シ又ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第四百二十條 土地ノ經界ヲ表シタル物件ヲ毀壞シ又ハ移轉シタル者ハ一月以上六月以下ノ  
重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第四百二十一條 人ノ器物ヲ毀棄シタル者ハ十一月以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ又ハ三圓以  
上三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第四百二十二條 人ノ牛馬ヲ殺シタル者ハ一月以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓  
以下ノ罰金ヲ附加ス

第四百二十三條 前條ニ記載シタル以外ノ家畜ヲ殺シタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ  
處ス但被害者ノ告訴ヲ待テ其罪ヲ論ス

法律法例 刑罰法 第三編 第二章 第十節 百二十五







治罪法便言 刑罰詳解

七官許ヲ得スシテ死屍ヲ解剖シタル者註譯 死屍ヲ解剖スルニハ警察署ノ許河ヲ受クベキモノト入許可ナクシテハ假令死刑ニ処セラレハ屍トシテ得ズ

八自己ノ所有地内ニ死屍アルヲ知テ官署ニ申告セズ又ハ他所ニ移シタル者註譯 本条ノハ自己ノ所有地内ニ死屍アルヲ知テ官署ニ申告セズ又ハ他所ニ移シタル者トシテモ罰アリ

九人ヲ毆打シテ創傷疾病ニ至ラサル者註譯 人ヲ毆打シテ創傷ニ至ラサル者トシテモ罰アリ又ハ疾病ニ至ラサル者トシテモ罰アリ

十密ニ賣淫ヲ為シ又ハ其媒合容止ヲ為シタル者註譯 本条ハ娼妓ノ鑑札ナクシテ陰ニ賣淫ヲ為シタル者トシテモ罰アリ又ハ其媒合容止ヲ為シタル者トシテモ罰アリ

十一人ノ住居セザル家屋内ニ潜伏シタル者註譯 人ノ住居セザル家屋内ニ潜伏シタル者トシテモ罰アリ又ハ其家屋又ハ人ノ住居シタル家屋ニ潜伏シタル者トシテモ罰アリ

十二定リタル住居ナク平常營生ノ産業ナクシテ諸方ニ徘徊スル者註譯 定リタル住居ナク平常營生ノ産業ナクシテ諸方ニ徘徊スル者トシテモ罰アリ

十三官許ノ墓地外ニ於テ私ニ埋葬シタル者註譯 本条ハ官許ノ墓地外ニ於テ私ニ埋葬シタル者トシテモ罰アリ

十四違警罪ノ犯人ヲ曲庇スル為メ偽證シタル者但偽証ノ為メ刑ヲ免カレタル時ハ第二百十

九条ノ例ニ從フ註譯 本条ハ違警罪ノ犯人ヲ曲庇スル為メ偽證シタル者トシテモ罰アリ

第四百二十六條 左ノ諸件ヲ犯シタル者ハ二日以上五目以下ノ拘留ニ處シ又ハ五十錢以上一

圓五十錢以下ノ科料ニ處ス註譯 本条ハ左ノ諸件ヲ犯シタル者トシテモ罰アリ

一人家ノ近傍又ハ山林田野ニ於テ濫リニ火ヲ焚ク者註譯 一人家ノ近傍又ハ山林田野ニ於テ濫リニ火ヲ焚ク者トシテモ罰アリ

二水火其他ノ變ニ際シ官吏ヨリ防禦ス可キ人求メテ受ケ傍觀シテ之ヲ肯セザル者註譯 本条ハ水火其他ノ變ニ際シ官吏ヨリ防禦ス可キ人求メテ受ケ傍觀シテ之ヲ肯セザル者トシテモ罰アリ

三不熟ノ菓物又ハ腐敗シタル飲食物ヲ販賣シタル者註譯 本条ハ不熟ノ菓物又ハ腐敗シタル飲食物ヲ販賣シタル者トシテモ罰アリ







三夜中燈火ナクシテ車馬ヲ疾驅スル者註 假令急遽ヲ要ス時トモモ燈火ナクシテ夜

四木石等ヲ道路ニ堆積シテ防圍ヲ設ケズ又ハ標識ノ點燈ヲ怠リタル者註 諸木材又ハ瓦

五瓦礫ヲ道路家屋圍ニ投擲シタル者註 通行ノ道路或ハ家屋圍ニ瓦礫ヲ

六禽獸ノ死屍ヲ道路ニ棄擲シ又ハ取除カザル者註 本條ハ註解ナリ

七汚穢物ヲ道路家屋圍ニ投擲シタル者註 諸物ヲ道路

八警察ノ規則ニ違背シテ工商ノ業ヲ爲シタル者註 警察ノ規則ニ從ヒ爲スベキ工商ノ業

九醫師穩渡事故ナクシテ急病人ノ招キニ應ゼザル者註 醫師穩渡ハ人ノ病ヲ司リ

十死亡ノ申告ヲ爲サズシテ埋葬シタル者註 死人アレバ乃チ醫師ノ診斷書ヲ以テ届出ツ

十一流言浮説ヲ爲シテ人ヲ誑惑シタル者註 本條ハ虛報ノ虚説ヲ唱ヘ人ヲ惑シ畏懼セシ

キハ乃チ第二百七十二條ノ罰

アリ(十以上百以下ノ罰金)

十二妄ニ吉凶禍福ヲ説キ又ハ祈禱符咒ヲ爲シ人ヲ惑ハシテ利ヲ圖ル者註 妄ニ吉凶禍福

十三私有地外へ濫リニ家屋牆壁ヲ設ケ又ハ軒楹ヲ出シタル者註 人民ノ私有地ヨリ外へ

十四官許ヲ得ズシテ路傍又ハ河岸ニ床店等ヲ開キタル者註 路傍ニ床店ヲ開キント

十五路上ノ植木市街ノ常燈及ヒ廁場等ヲ毀損シタル者註 路上ニ植木アル諸樹又ハ常燈

十六道路橋梁其他ノ場所ニ榜示シタル通行禁止及ビ指道標ノ類ヲ毀棄汚損シタル者註 道路



第四百二十八條 左ノ諸件ヲ犯シタル者ハ一日ノ拘留ニ處シ又ハ十錢以上一圓以下ノ科料ニ

處ス註譯 左ニ記載シタル第一ヨリ第十一迄ハ前條ニ比スレバ又

一官署ヨリ價額ヲ定メタル物品ヲ定價以上ニ販賣シタル者註譯 官署ヨリ價額ヲ定メタル

品ヲ其定メタルアタヒヨリ高ク賣タル者

二渡船橋梁其他ノ場所ニ於テ定價以上ノ通行錢ヲ取り又故ナク通行ヲ妨ゲタル者註譯 渡船橋梁

三渡船橋梁其他ノ通行錢ヲ拂フ可キ場所ニ於テ其定價ヲ出サズシテ通行シタル者註譯 渡船橋梁

四路上ニ於テ賭博ニ類スル商業ヲ爲シタル者註譯 本項ハ食物其他ノ諸物品ヲ賭博シ得ルモノ

五官許ヲ得ズシ劇場其他ノ觀物場ヲ開キ及ビ其規則ニ違背シタル者註譯 演劇其他ノ諸觀物場

六溝渠下水ヲ毀損シ又ハ官署ノ督促ヲ受ケテ溝渠下水ヲ浚ハザル者註譯 溝渠下水ハ雨水

七制止ヲ肯セズシテ路傍ニ食物其他ノ商品ヲ羅列スル者註譯 本項ハ路傍ニ食物ノ他諸

八官許ヲ得ズシテ獸類ヲ官有地ニ放チ又ハ牧畜シタル者註譯 本項ハ註解ヲ要セズシテ明

九身體ニ刺文ヲ爲シ及ビ之ヲ業トスル者註譯 身體ニ刺文ヲ爲スハ實ニ身體ヲ玩物ヲ爲シ

十他人ノ繫ギタル牛馬其他ノ獸類ヲ解放シタル者註譯 牛馬或ハ犬其他ノ諸獸ヲ所有主ノ

十一他人ノ繫ギタル舟筏ヲ解放シタル者註譯 本項ハ舟筏ヲ所有主ノ繫キ置シテ徒ラニ放

第四百二十九條 左ノ諸件ヲ犯シタル者ハ五錢以上五十錢以下ノ科料ニ處ス註譯 左ニ記載

台 法律 刑罰法 刑罰法 刑罰法

台 法律 刑罰法 刑罰法 刑罰法

台 法律 刑罰法 刑罰法 刑罰法

台 法律 刑罰法 刑罰法 刑罰法

台 法律 刑罰法 刑罰法 刑罰法

台 法律 刑罰法 刑罰法 刑罰法

台 法律 刑罰法 刑罰法 刑罰法

台 法律 刑罰法 刑罰法 刑罰法

台 法律 刑罰法 刑罰法 刑罰法

台 法律 刑罰法 刑罰法 刑罰法

台 法律 刑罰法 刑罰法 刑罰法

台 法律 刑罰法 刑罰法 刑罰法

台 法律 刑罰法 刑罰法 刑罰法

台 法律 刑罰法 刑罰法 刑罰法

台 法律 刑罰法 刑罰法 刑罰法



第十八条 八道ハ前條ニ比スレバ又更ニ輕キモノニ人拘留ニハ處セス止メ僅少ノ材料ニノミ処スルナリ

一橋梁其ハ堤防ノ害ト為ル可キ場所ニ舟筏ヲ繫ギタル者註譯 本項ハ註解ナリ

二牛馬諸車其他物件ヲ道路ニ横へ又ハ木石薪炭等ヲ堆積シテ行人ノ妨害ヲ爲シタル者註譯 牛馬及ヒ諸車其他種々ノ物ヲ往來ノ道路ニ横へ或ハ木石薪炭等ハ積炭等ノ類ヲ公衆ノ往來ノ可キ道路ニ横置キハ甚ダ行人ノ妨害ヲ爲スモノナレバ罪アリトス

三車馬ヲ並べ牽テ行人ノ妨害ヲ爲シタル者註譯 本項ハ人カ車又ハ荷車或ハ馬牛等ヲ道路ニ並べ牽テ往來ノ人ヲ妨害スルモノナレバ

四水路ニ於テ舟ヲ並べ通船ノ妨害ヲ爲シタル者註譯 本項ハ註解ナリ

五氷雪塵芥等ヲ路上ニ投棄シタル者註譯 氷雪ヲ道路ニ投棄スレバ往來ノ危險ヲナシ

六官署ノ督促ヲ受ケテ道路ノ掃除ヲ爲サザル者註譯 本項ハ官署ヨリ道路ヲ掃除スベキノ督促ヲ受ケナガラ、仍ホ掃除ヲ怠ル者ヲ云フ

七制止ヲ肯ゼズシテ路上ニ遊戯ヲ爲シ行人ノ妨害ヲ爲シタル者註譯 本項ハ路上ニ於テ遊戯ヲ行ハシテ行人ノ妨害ヲ爲スル者ヲ云フ

八牛馬ヲ牽キ又ハ繫ク一ヲ忽カセニシテ行人ノ妨害ヲナシタル者註譯 牛馬又ハ路上ニ牽キ或ハ繫クニ忽カセニシテ行人ノ妨害ヲ爲スル者ハ、凡テ罪アリ

九出入ヲ禁止シタル場所ニ濫リニ出入シタル者註譯 出入ヲ禁止シタル場所トハ例ヘハ、行ノ家屋船等ノ出入ヲ禁止セルトウニシテ是等ノ場所ヲ濫リニ出入シタル者ヲ罰ス

十通行禁止ノ榜示ヲ犯シテ通行シタル者註譯 道路又ハ橋梁修繕ノ際通行ヲ禁止スル榜示ヲ犯シテ通行シタル者

十一道路ニ於テ放歌高聲ヲ發シテ制止ヲ肯ゼザル者註譯 道路ニ於テ歌ヲ詠ヒ、詩ヲ吟シ、其ノ聲ヲ制止スルヲ肯ゼズシテ、仍ホ制止セザル者ヲ云フ

十二酩酊シテ路上ニ喧嘩シ又ハ醉卧シタル者註譯 酒ニ酔テ道路ヲ喧シク狂ヒ、或ハ醉卧シタル者ヲ云フ

十三路上ノ常燈ヲ消シタル者註譯 街路ノ常燈ハ、暗夜ノ通行ヲ助クルモノニ、衆人一概ノ便利ヲ致ス、因テ之ヲ罰ス

十四人家ノ牆壁ニ貼紙及ビ樂書シタル者註譯 人家ノ牆壁等ニ徒ラニ無用ノ貼紙ヲナシ、又ハタハムレニ樂書シテ、汚穢スルモノヲ云フ

十五邸宅ノ番号標札招牌又ハ貸家賣家ノ貼紙其他報告ノ榜標等ヲ毀損シタル者註譯 本項ハ、明瞭ナリ



十六他人ノ田野園圃ニ於テ菜葉ヲ採食シ又ハ花卉ヲ採折シタル者註釋 本項ハ他人ノ所有ノ

後シ又ハ園圃ニ養ヒタル花卉類ヲ折採リタル者ヲ云フ○此項ニ云フハ其情輕キ

モノニモ其家裏花卉ヲ竊ミ去リタル者ハ即テ第三百七十二條ノ罰アリ(重禁錮)

十七公園ノ規則ヲ犯シタル者註釋 公園ノ規則トハ或ハ樹木ヲ折ルベカラズ或ハ魚鳥ヲ捕

鳥ヲ捕ル註釋 往來スベキ路ナキ他人ノ

十八通路ナキ他人ノ田圃ヲ通行シ又ハ牛馬ヲ牽入レタル者註釋 田圃ヲ通行シ又ハ牛馬ヲ牽入レ

第四百三十條 前數條ニ記載スルノ外各地方ニ便宜ニヨリ定ムル所ノ違憲罪ヲ犯シタル者ハ

其罰則ニ從テ處斷ス註釋 本條ハ第四百二十五條リリ第四百九條迄ノ五條ニ記載シタル

テ處斷スルコトヲ云フ然シテナガラ拘留料ヨリ外ノ刑ハ勿論科ス

治罪法 傍訓 刑法譯解 終

太政官第六拾七號

刑法附則別冊之通相定メ明治十五年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

右奉 勅旨布告候事

明治十四年十二月十九日

太政大臣 三條實美

司法卿 大木喬任

刑法附則目錄

第一章 主刑執行 自第一條 至第二十條

第二章 監視 自第二十一條 至第三十七條

第三章 假出獄及特別監視 自第三十八條 至第四十七條

第四章 刑事裁判費用 自第四十八條 至第五十三條

第五章 賠償處分 自第五十四條 至第六十三條

刑法附則詳解

第一章 主刑執行



刑法附則譯解

第一章 主刑執行

第一條 死刑ハ其執行ヲ爲ス裁判所ノ檢察官書記及ヒ獄司刑場ニ立會獄司ヨリ囚人ニ死刑ヲ執行ス可キヲ告示シタル後獄丁ヲシテ之ヲ執行セシム但其時限ハ午前十時前トス

第一條 死刑ハ其執行ヲ爲ス裁判所ノ檢察官書記及ヒ獄司刑場ニ立會獄司ヨリ囚人ニ死刑ヲ執行ス可キヲ告示シタル後獄丁ヲシテ之ヲ執行セシム但其時限ハ午前十時前トス

第二條 死刑ヲ行フ時ハ刑場ノ警戒ヲ嚴シ執行ニ關スル者ノ外刑場ニ入ルヲ許サズ但立會官吏ノ許可ヲ得タル者ハ此限ニ在ラス

第三條 死刑ノ執行畢リタル時ハ書記其始末書ヲ作り立會ヲ爲シタル官吏ト共ニ署名捺印シ之ヲ裁判所ノ檢事局ニ納ム可シ

第四條 左ニ記載シタル日ハ死刑ヲ行フヲ禁ス

- 元始祭 一月一日
孝明天皇祭 二月十一日
紀元節 二月十二日
春季皇靈祭 三月三日
仁孝天皇祭 二月九日
神武天皇祭 四月十七日
六月大祓 六月三十日
秋季皇靈祭 九月九日
神宮神嘗祭 十月十七日
天長節 十一月三日
後桃園天皇祭 十二月六日
新嘗祭 十一月廿三日
光格天皇祭 十二月十二日

第五條 死刑ノ宣告ヲ受ケタル婦女懐胎ト申スル者ハ醫師及ヒ穩婆ヲシテ之ヲ検査セシメ

刑法附則註釋

第一章 主刑執行



刑罰則則言解

果シテ懷胎ナル時ハ檢察官ヨリ司法卿ニ上申シ其執行ヲ停メ産後一百日ヲ經テ更ニ司法卿ノ命令ヲ受テ決行スベシ

本條ハ刑法第十五條ニ上界一婦女懷胎ナル時ハ其執行ヲ停メ分後一百日ヲ經ルニ非ラザレバ刑ヲ行ハスベシ

本條ハ刑法第十五條ニ上界一婦女懷胎ナル時ハ其執行ヲ停メ分後一百日ヲ經ルニ非ラザレバ刑ヲ行ハスベシ

本條ハ刑法第十五條ニ上界一婦女懷胎ナル時ハ其執行ヲ停メ分後一百日ヲ經ルニ非ラザレバ刑ヲ行ハスベシ

本條ハ刑法第十五條ニ上界一婦女懷胎ナル時ハ其執行ヲ停メ分後一百日ヲ經ルニ非ラザレバ刑ヲ行ハスベシ

本條ハ刑法第十五條ニ上界一婦女懷胎ナル時ハ其執行ヲ停メ分後一百日ヲ經ルニ非ラザレバ刑ヲ行ハスベシ

本條ハ刑法第十五條ニ上界一婦女懷胎ナル時ハ其執行ヲ停メ分後一百日ヲ經ルニ非ラザレバ刑ヲ行ハスベシ

本條ハ刑法第十五條ニ上界一婦女懷胎ナル時ハ其執行ヲ停メ分後一百日ヲ經ルニ非ラザレバ刑ヲ行ハスベシ

本條ハ刑法第十五條ニ上界一婦女懷胎ナル時ハ其執行ヲ停メ分後一百日ヲ經ルニ非ラザレバ刑ヲ行ハスベシ

本條ハ刑法第十五條ニ上界一婦女懷胎ナル時ハ其執行ヲ停メ分後一百日ヲ經ルニ非ラザレバ刑ヲ行ハスベシ

本條ハ刑法第十五條ニ上界一婦女懷胎ナル時ハ其執行ヲ停メ分後一百日ヲ經ルニ非ラザレバ刑ヲ行ハスベシ

本條ハ刑法第十五條ニ上界一婦女懷胎ナル時ハ其執行ヲ停メ分後一百日ヲ經ルニ非ラザレバ刑ヲ行ハスベシ

本條ハ刑法第十五條ニ上界一婦女懷胎ナル時ハ其執行ヲ停メ分後一百日ヲ經ルニ非ラザレバ刑ヲ行ハスベシ

本條ハ刑法第十五條ニ上界一婦女懷胎ナル時ハ其執行ヲ停メ分後一百日ヲ經ルニ非ラザレバ刑ヲ行ハスベシ

本條ハ刑法第十五條ニ上界一婦女懷胎ナル時ハ其執行ヲ停メ分後一百日ヲ經ルニ非ラザレバ刑ヲ行ハスベシ

本條ハ刑法第十五條ニ上界一婦女懷胎ナル時ハ其執行ヲ停メ分後一百日ヲ經ルニ非ラザレバ刑ヲ行ハスベシ

本條ハ刑法第十五條ニ上界一婦女懷胎ナル時ハ其執行ヲ停メ分後一百日ヲ經ルニ非ラザレバ刑ヲ行ハスベシ

本條ハ刑法第十五條ニ上界一婦女懷胎ナル時ハ其執行ヲ停メ分後一百日ヲ經ルニ非ラザレバ刑ヲ行ハスベシ

本條ハ刑法第十五條ニ上界一婦女懷胎ナル時ハ其執行ヲ停メ分後一百日ヲ經ルニ非ラザレバ刑ヲ行ハスベシ

本條ハ刑法第十五條ニ上界一婦女懷胎ナル時ハ其執行ヲ停メ分後一百日ヲ經ルニ非ラザレバ刑ヲ行ハスベシ

本條ハ刑法第十五條ニ上界一婦女懷胎ナル時ハ其執行ヲ停メ分後一百日ヲ經ルニ非ラザレバ刑ヲ行ハスベシ

本條ハ刑法第十五條ニ上界一婦女懷胎ナル時ハ其執行ヲ停メ分後一百日ヲ經ルニ非ラザレバ刑ヲ行ハスベシ

本條ハ刑法第十五條ニ上界一婦女懷胎ナル時ハ其執行ヲ停メ分後一百日ヲ經ルニ非ラザレバ刑ヲ行ハスベシ

本條ハ刑法第十五條ニ上界一婦女懷胎ナル時ハ其執行ヲ停メ分後一百日ヲ經ルニ非ラザレバ刑ヲ行ハスベシ

本條ハ刑法第十五條ニ上界一婦女懷胎ナル時ハ其執行ヲ停メ分後一百日ヲ經ルニ非ラザレバ刑ヲ行ハスベシ

本條ハ刑法第十五條ニ上界一婦女懷胎ナル時ハ其執行ヲ停メ分後一百日ヲ經ルニ非ラザレバ刑ヲ行ハスベシ

本條ハ刑法第十五條ニ上界一婦女懷胎ナル時ハ其執行ヲ停メ分後一百日ヲ經ルニ非ラザレバ刑ヲ行ハスベシ

本條ハ刑法第十五條ニ上界一婦女懷胎ナル時ハ其執行ヲ停メ分後一百日ヲ經ルニ非ラザレバ刑ヲ行ハスベシ

本條ハ刑法第十五條ニ上界一婦女懷胎ナル時ハ其執行ヲ停メ分後一百日ヲ經ルニ非ラザレバ刑ヲ行ハスベシ

第九條

徒流ノ囚ヲ發遣スルハ裁判ヲ爲シタル地ノ獄司ヨリ内務卿ニ上申シ其命令ヲ待テ

第八條

死刑ヲ執行シタル時ハ犯人ノ屬籍氏名年齢職業住所及ヒ其罪狀刑名ヲ記載シテ左

第七條

死刑ノ宣告ヲ受ケタル者執行ニ至ルマデ何時ニテモ獄司ノ許可ヲ得テ其親屬故舊

第六條

死刑ノ遺骸ハ一定ノ場所ニ埋ム若シ親屬故舊請フ者アル時ハ獄司之ヲ許可シ下付

第五條

死刑ノ執行ニ當リテハ犯人ノ遺骸ト雖モ苟モ之ヲ棄ルノ理ナシ故ニ行政官ニ於テ埋葬スベ

第四條

死刑ノ執行ニ當リテハ犯人ノ遺骸ト雖モ苟モ之ヲ棄ルノ理ナシ故ニ行政官ニ於テ埋葬スベ

第三條

死刑ノ執行ニ當リテハ犯人ノ遺骸ト雖モ苟モ之ヲ棄ルノ理ナシ故ニ行政官ニ於テ埋葬スベ

第二條

死刑ノ執行ニ當リテハ犯人ノ遺骸ト雖モ苟モ之ヲ棄ルノ理ナシ故ニ行政官ニ於テ埋葬スベ

第一條

死刑ノ執行ニ當リテハ犯人ノ遺骸ト雖モ苟モ之ヲ棄ルノ理ナシ故ニ行政官ニ於テ埋葬スベ

刑罰則則言解

第一章 主刑執行



刑罰附具言解

發船ノ地ニ護送ス可シ  
註譯 徒刑流刑ノ裁判官ニ受ケタルモノハ何レモ重罪ナルヲ以テ  
爲ナレハナリ而シテ其島嶼場所ノ下行政ノ長官則チ發令ニ於テ是レノ  
標定セラル可シ故ニ獄司ヨリ内務卿ニ上申シ其命令ヲ待テ護送スルモノナリ

第十條 徒刑ノ囚ハ島地ニ於テ便宜ニ從セ獄外ノ地ニ護送ス可シ  
註譯 徒刑ハ普通犯ノ刑ニ  
島地ニ於テ服役ノ種類如何ニ至レバ其發遣所ノ模様ニ由リ別ニ定メラルベシ然レモ  
ニ於テ例ヘバ礦業ヲ從トシ港灣ヲ開港シ或ハ荒蕪ヲ開拓スルカ如キ難事ノ役ニ服スル  
アルベキトナリ

第十一條 流刑ノ囚幽閉中獄内ニ於テ自ラ工業ヲ爲サント請フ者ハ獄司之ヲ許ス可シ  
註譯 流刑ハ國事犯ノ刑ニシテ服役ノ法ナシ然レモ空ク日月ヲ閱過スル時ハ經濟上ヨリ視  
ルモ甚ダ快ナラス又身休ヲ勞スル時ハ健全ヲ得且ツ自然ニ懺悔心ヲ生スルト容易ナリ故  
ニ自カラ工業ヲ爲サント請ヘバ有テハ業即チ耕作職工等無  
形ノ業即チ寫字著書等ノ業ヲ許スハ大ニ益アルモノナリ

第十二條 流刑ノ囚幽閉ヲ免ス可キ者アル時ハ獄司ヨリ内務司法兩卿ニ上申シ其許可ヲ受  
ク可シ  
註譯 無期流刑ノ囚ハ五年有期流刑ノ囚ハ三年ヲ經過スレハ幽閉ヲ免シ島地ニ於テ  
居住スルヲ得即刑法第九一條ノ主義之ナリ而シテ同條ニ行政ノ處分ヲ以テテ  
アリ本條内務司法兩卿ハ則行政官ナルヲ以  
テ其兩卿ニ上申シ許可ヲ受クベキモノトス

第十三條 徒刑ノ囚假出獄ヲ許サレタル者又ハ流刑ノ囚幽閉ヲ免セラレタル者家屬ヲ招  
同居スルヲ請フ時ハ之ヲ許スヲ得但其路費ハ自ラ之ヲ辨ス可シ  
註譯 徒刑ノ囚ハ假出獄ノ時ハ其路費ハ自ラ之ヲ辨ス可シ  
時ハ刑法第五十三條ニ依リ假出獄ヲ許サルハ一アリ又流刑ノ囚ハ假出獄ノ時ハ其路費ハ自ラ之ヲ辨ス可シ  
レタル時ハ父母ノ如キ待養ヲ要スル者又ハ婚或ハ兄弟姉妹甥姪ノ如キ尤モ近親ノ親屬ヲ  
招キ同居生産ヲ營ムト得然レモ其親屬ニ於テ浪蕩ノ所爲ヲ爲サスル者又ハ出獄後モ其路費ハ自ラ之ヲ辨ス可シ  
其島地ヲ進出サルトアル可シ路費ヲ自ラ之ヲ辨スル者ハ本條ニ依リ假出獄ノ時ハ其路費ハ自ラ之ヲ辨ス可シ  
皆政府ノ恩典ニ出テ犯入ヨリ本ムル權利ナキモ  
ノナリ故ニ自カラ之ヲ支辨スルハ當然ノトナリ

第十四條 流刑ノ囚幽閉ヲ免シ地ヲ限り居住セシムル者ハ監獄近傍ノ地ヲ限リ獄司、監督  
ヲ受ケシム若シ已ムト得サル事故アル時ハ獄司ニ請テ限外ニ出ルヲ得  
註譯 本條ハ流刑ノ囚ハ監獄近傍ノ地ニ  
免セラレ島地ニ居住スルヲ得ルト雖モ獄司ノ監督ヲ免ルヲ能ハス故ニ監獄近傍ノ地ニ  
限り居住セシム必竟獄司監督ニ便ナルノミナラス囚人ニ於テモ自ラ之ヲ懺悔善ノ行爲ヲ  
ナスノ益アルヲ以テナリ然レモシ作業又ハ同居親屬ノ多寡或ハ疾病等ノ都合ニ依リ止  
ヲ得ズ地ヲ移ササルヲ得サル事故アル時ハ獄司ニ乞フテ其限外ニ出ツルコトヲ得ル  
モノ  
ナリ

第十五條 流刑ノ囚幽閉ヲ免セラレタル者再ヒ罪ヲ犯タル時ハ本刑期限内ト雖モ島地ニ於  
テ直チニ其刑ヲ執行ス可シ  
註譯 本條ハ刑法第九十五條ノ如ク若シ流刑ノ囚ハ幽閉ヲ免シ  
刑トニ由テ其執行ノ前後ヲ定メ假令刑期限内ト雖モ直チニ島地ニ於テ其刑ヲ執行スル  
ト云フ蓋治罪法ノ主義ニ於テハ犯罪ノ地ヲ以テ裁判ノ管轄ヲ定メタレバ直ニ島地ニ於

刑罰附具言解 第一章 主刑執行



刑罰附具言角

テ其刑ヲ執行スルハ便利  
ノ法ナリ

第十六條 懲役重禁錮ノ囚ハ便宜ニ從テ獄外ノ役ニ服セシムルヲ得  
註譯 本條ハ第十條ノ主  
義ト同一ナリ然レモ  
差別アルノミ

第十七條 禁獄輕禁錮ノ囚獄内ニ於テ自ラ工業ヲ爲サント請フ者ハ獄司之ヲ許ス可シ  
註譯 本條ハ第十一條  
ノ主義ト同一ナリ

第十八條 服役限内更ニ罪ヲ犯シ再々定役ニ服スル者後犯ノ刑期百日以テハ工錢ヲ給與セ  
註譯 刑法第九五條ニ(上)是但現後百日以內ハ給與ノ限ニ在ラスト此主義ヲ解スレハ本條  
ハ亦自カラ了解スルヲ得ベシ抑百日以下ハ囚人其業ニ練熟セシテ却テ得ル所失ヲ所  
ヲ償フニ足ラス故ニ給與セザル所ナリ然ラハ將サニ百日ヲ過キントスルニ當リ又罪ヲ  
犯シ後犯ノ刑期百日以內ハ給與セザル所ナリ然ラハ將サニ百日ヲ過キントスルニ當リ又罪ヲ  
犯ノ百日以內ハ工錢ノ給與分ヲ給與スルニ似タリト雖モ其業ニ練熟シタルモ  
刑中現役百日以內ハ給與セズト云フ意味ナレハナリ若シ後犯ノ百日以內ハ給與セザルモ  
ノトセバ初犯ノ刑期滿限ノ後再々罪ヲ犯シ現後百日以內ニ係ル工錢ヲモ亦給與セザルモ  
カラサル道理ナリ故ニ本條ニ縱令服役限内更ニ罪ヲ犯シ定役ニ服スルモ後犯ノ百日以內  
以內ハ工錢ヲ給與セザル  
ヲヲ註明シタルニ過キス

第十九條 囚人ニ給與スル工錢ノ額ヲ定メ之ヲ交付シ及ヒ領置スル方法ハ監獄ノ規則ニ從  
註譯 囚人ニ給與スル工錢ノ金額及ビ之ヲ下ケ渡シ又ハ領置スル方法ヲ刑法及ヒ刑罰法  
則ニ記載スルハ實ニ難キナリ何トナレバ獄舎ノ地位ニ因テ自ラ其入獄ヲ異ニス  
レハ規則ニ從テ定ムルハス故ニ別ニ  
監獄ノ規則ニ從テ定ムルモノトス

第二十條 罰金科料ノ宣告ヲ受ケ未タ納完セザル前ニ於テ犯人身死スル時ハ之ヲ徴收セス  
註譯 罰金科料ノ宣告ヲ受ケテ納完スルハ其ノ罪ノ禁  
錮ヲ以テ罰金ニ交ヘ一日ヲ一圓ニ換算スルハ既ニ刑罰法第七  
條ニ定メタリ而シテ若シ未タ納完セザル前ニ當リ犯人死スレバ之ヲ徴收セズ何トナレ  
ハ刑ノ消滅ハ犯人死スニ因レハナリ之ニ反シテ其罰金科料ヲ宣告シタル上ハ政府ハ犯人ニ  
對シテ民事上ノ債權ヲ有ス故ニ本條死スルモ其財產ニ對シテ徴收スルヲ得ト謂フモ又  
一理ナキニ非ラス然リト雖モ其相續人ニ及スハ些ト愉快ナラサルヲ以テ本條ノ如ク  
定メシ  
ナリ

附加ノ罰金ニ於ル亦同ジ  
註譯 罰金科料ノ宣告ヲ受ケテ納完スルハ其ノ罪ノ禁  
錮ヲ以テ罰金ニ交ヘ一日ヲ一圓ニ換算スルハ既ニ刑罰法第七  
條ニ定メタリ而シテ若シ未タ納完セザル前ニ當リ犯人死スレバ之ヲ徴收セズ何トナレ  
ハ刑ノ消滅ハ犯人死スニ因レハナリ之ニ反シテ其罰金科料ヲ宣告シタル上ハ政府ハ犯人ニ  
對シテ民事上ノ債權ヲ有ス故ニ本條死スルモ其財產ニ對シテ徴收スルヲ得ト謂フモ又  
一理ナキニ非ラス然リト雖モ其相續人ニ及スハ些ト愉快ナラサルヲ以テ本條ノ如ク  
定メシ  
ナリ

第二章 監視  
註譯 監視トハ刑法第十條第四項ニ記載シタル附加刑ノ一ニシテ至刑ニ  
附加スルモノナリ蓋重罪ニ附加スルモノハ刑法第三十七條ノ如ク別ニ  
宣告ヲ用ヒス本條ノ短期三分一ノ監視ニ付シ又輕罪ニ附加スルモノハ同三十八條  
ノ如ク各本條ニ記載シタル分ニ限リ別ニ宣告ヲ以テコレヲ附加スルモノ  
トス

第二十一條 監視ハ主刑ノ終リタル後仍ホ將未ラ檢束スル爲メ警察官吏ヲシテ犯人ノ行狀  
ヲ監視セシムル者トス  
註譯 監視トハ警察官吏ヨリ其行狀ノ監視觀察ヲ受ケ後未身休ノ自  
由ヲ束縛セラル刑ナリ之ヲ簡單ニ謂ヘハ社會ノ爲メニ再犯ヲ豫防  
スルニ在リ

刑法附具言角

第二章 監視



シタルニ過キス者ハ其裁判所ノ檢察官ヨリ警察所ニ護送ス可シ  
及スルニ過キス者ハ其裁判所ノ檢察官ヨリ警察所ニ護送ス可シ  
ニ財産上ノ罪ヲ蒙リシモノ  
ト謂フモ亦無ヒサルナリ

第二十二條 監視ニ付ス可キ者ハ豫メ其住所ヲ定メシメ主刑ノ終リタル時獄司ヨリ犯人ヲ  
其住居ノ地ノ警察所ニ護送シ監視ヲ執行セシム主刑ノ期滿免除ヲ得タル者又ハ主刑ノ免  
シ止タ監視ニ付スル者ハ其裁判所ノ檢察官ヨリ警察所ニ護送ス可シ

第二十三條 犯人ヲ警察所ニ護送スル時ハ其監視ノ起算滿期ヲ記載シタル文書及ヒ刑名宣  
告書ノ謄本ヲ附ス可シ

第二十四條 犯人ノ住居遠地ニ在テ一日程ヲ過クル者ハ獄司若クハ檢察官ヨリ先ツ最近ノ  
期ヲ記載シタル文書及ヒ刑名宣告書ノ謄本ヲ附ス可シ

第二十五條 警察所ヨリ犯人ヲ住居ノ地ノ警察所ニ送致スル時ハ其里程ヲ計リ日數ヲ限定  
シテ旅券ヲ付與シ犯人到着ノ日直チニ之ヲ其地ノ警察所ニ差出サシム但途中事故アリテ  
淹滞シタル時ハ第三十一條ノ例ニ從フ可シ

第二十六條 犯人住居ノ地ノ警察所ニ於テハ監視ノ期間遵守スベキ條件ヲ讀聞カセ監視  
ノ票ヲ下付スベシ

第二十七條 監視ニ付セラレタル者ハ其期限間左ノ條件ヲ遵守ス可シ







刑罰附則

之レ其地ノ警察官ノ監視ヲ受ケシムルガ爲メナリ...

第三十一條 旅行中天災又ハ疾病等ニ因リ臨時淹滞シタル時ハ事由ヲ其地ノ警察所ニ具申シ...

第三十二條 監視ニ付スル者任居ナク及ヒ引取人ナキ時ハ其期限間懲治場ニ留置シ工業ヲ...

第三十三條 懲治場ニ留置シタル者限内引取人ヲ得又ハ任居ノ地ニ歸著スル資力ヲ得タル...

第三十四條 刑期限内再ヒ罪ヲ犯シ初犯再犯共ニ監視ニ付ス可キ時又ハ監視ノ期限間再ヒ...

第三十五條 罰金ヲ禁錮ニ換ヘタル者監視ニ付ス可キ時ハ其禁錮ノ日數ヲ監視ノ期限ニ算...

第三十六條 監視ニ付セラレタル者其規則ヲ遵守シ後改ノ状アル時ハ警察官ヨリ其實行...

第三十七條 入ス可シ...

第三十八條...

第三十九條...

第四十條...

第四十一條...

第四十二條...

第四十三條...

第四十四條...

第四十五條...

第四十六條...

第四十七條...

第四十八條...

第四十九條...

第五十條...

第五十一條...

第五十二條...

第五十三條...

第五十四條...

第五十五條...

第五十六條...

第五十七條...

第五十八條...

第五十九條...



其事ヲ上申シテ行政ノ長官ナル内務及司法ノ兩卿ヨリ指圖ヲ受ケ假ニ監視ヲ免入  
ヲ得爲主刑ニ假出獄又ハ復權ノ例アルガ如シ然レモ若シ不行狀ノ所爲アル時ハ再ビ復  
ヲ監視ニ付セ  
ラルハトアリ

第三十七條 假ニ監視ヲ免セラレタル者任居ヲ轉移スル時ハ第二十七條第三及第二十九  
條ノ例ニ從フ可シ  
註釋 本條ハ註釋ナリ

第三章 假出獄及特別監視

レハ假ニ出獄ヲ許サルハトアリ是則チ恩惠ノ法ニシテ受刑人ノ其刑期ノ若干ヲ経過ス  
リ善行ヲ爲サシムルノ益アリトス又特別監視トハ假出獄ヲ許サレシ者ニ復リ通常  
監視ヨリ一層嚴  
格ナルモノナリ

第三十八條 假出獄ヲ許ス可キ者アル時ハ獄司ヨリ其犯人ノ行狀及刑名入獄ノ年月ヲ記  
載シ假ニ出獄ヲ許サレノ内務司法兩卿ニ上申シテ許可ヲ受シ可シ  
註釋 本條ハ刑法第  
五十三條以下ニ記載

シタル所ニシテ犯人ニ善行ヲ望ムノミナラズ一般ノ獎勵ヲ與ルルノ法ナリ  
有罪無罪ノ別ヲ問ハズ犯人ノ獄中ニシテ善行ヲ爲シ或ハ其刑期ノ若干ヲ経過スル  
ノ年限ヲ記載シ假ニ出獄ヲ許サレノ行政ノ長官ヨリ其犯人ノ刑名入獄ノ年月ヲ記  
トス則チ第三十六條ニ假ニ監視ヲ免サレタルト同一ナリ若シ本條ノ方法ナカリヤ  
守ルモノト守ラザルモノト同一ノ苦痛ヲ受ルトニ至リ  
却テ犯人ヲシテ自棄ノ惡心ヲ生ゼシムルコトヲ之レ恐ル

第三十九條 假出獄ヲ許シタル時ハ獄司ヨリ其證票ヲ犯人ニ下付スヘシ  
註釋 假出獄ヲ許  
スル時ハ其證票ヲ下付シ假出獄者タルコトヲ明ニセシメノナリ

第四十條 假出獄證票ニハ左ノ條件ヲ記載ス可シ

一 本人ノ屬籍氏名年齢住所罪名刑名及處刑ノ年月日

二 殘期何年何月何日間假出獄ヲ許ス事

三 假出獄中ハ特別監視ニ付ス可キ事

四 假出獄中更ニ重罪ヲ犯シタル時ハ直チニ出獄ヲ停止シ出獄中ノ日數ヲ刑期ニ算入セ

サハ事

註釋 本條第四項ハ刑法第五十六條ニ在ルル假出獄中更ニ重罪ヲ犯シタル  
時ハ直チニ出獄ヲ停止シ出獄中ノ日數ヲ刑期ニ算入スルコトヲ示ス

何トナレバ假出獄ハ本法ノ恩惠ニシテ犯人ノ刑ヲ得ヘキモノニ對シテ然ルニ其恩惠  
ニ在テ假出獄ヲ許スルハ其時ラ假出獄中ノ日數ニ算入シテ其刑期ヲ行ハザルベ  
シ犯人ニ下付スルモノナリ

第四十一條 重罪ノ刑ニ處セラレタル者假出獄中自ラ財産ヲ治メ若クハ職業ヲ營マントス

ル時ハ警察所ニ申請シ許可ヲ受シ可シ  
註釋 重罪ノ刑ニ處セラレタル者ハ主刑ノ終ルマ  
テ時ラ財産ヲ治ムルコトヲ營シタリ然レモ其刑期ヲ減  
ズ



第四十二條 假出獄ヲ許ス可キ者ハ豫メ其住所ヲ定メシメ出獄ノ日獄司ヨリ其證票ノ原本ヲ添ヘ犯人ヲ其住居ノ地ノ警察所ニ護送シ特別監視ヲ執行セシム可シ

第四十三條 特別監視ニ付スル者ハ第二十三條第二十四條第二十五條第二十六條第二十九條第三十一條ノ例ヲ適用ス

第四十四條 特別監視ニ付セラレタル者ハ其期限間左ノ條件ヲ遵守ス可シ  
一 毎週間一度所轄ノ警察所ニ到リ其謹慎ナルヲ表シ監視ノ票ヲ出シ官吏ノ認印ヲ受ク可シ

但疾病又ハ己ムヲ得サル事故アリテ警察所ニ到ルヲ能ハサル時ハ其事由ヲ届出ス可シ

二 酒宴遊興ノ席ニ會シ又ハ群集ノ場所ニ參會スルヲ許サス

三 事故アリテ住居ヲ轉移セントスル時ハ警察所ニ申請シ許可ヲ受ク可シ但他ノ府縣ニ轉移スルヲ許サス

四 往復一日程ヲ過クル地ニ旅行スルヲ許サス

第四十五條 特別監視ノ期限間ハ警察官吏時宜ニ因リ其家宅ニ臨檢スルヲアル可シ

第四十六條 假出獄ヲ許サレタル者刑期満限ノ日ニ至レハ假出獄證票ヲ警察所ニ還納シ警察所ヨリ證票ヲ出シタル獄司ニ還送ス可シ

主刑満限ノ後監視ニ付ス可キ犯人ナル時ハ警察所ニ於テ第二章ノ例ニ從テ處分ス可シ

假出獄中規則ヲ守リ刑法滿限ノ日ニ至レバ假出獄證票ヲ警察所ニ還納スヘキモノトス若シ主刑満期ノ後附加ノ監視ニ付スベキ犯人ナル時ハ更ニ第二章通則ノ監視ヲ付セラレ則チ第一章一條ヨリ第三十七條マテノ手續ニ依ルベキモノナリ

刑ノ終リタル後附加スル監視ト異ナルヲ以テ一層ノ嚴格ヲ加ヘタルモノナリ

刑ノ終リタル後附加スル監視ト異ナルヲ以テ一層ノ嚴格ヲ加ヘタルモノナリ



第四十七條 假出獄ヲ許ス可キ者住所ナシ及ヒ引取人ナキ時ハ第三十二條ノ例ニ從ヒ懲治場ニ留置ス可シ

第四章 刑事裁判費用 刑事裁判費用トハ犯罪ノ故ヲ以テ對スル所ノモノニシテ法上ニ制裁セザル所以ハ刑事裁判官便宜ニ依リテ酌定スルニ在レバナリ

第四十八條 豫審公判ニ付キ呼出シタル證人醫師鑑定人通譯人翻譯人ニ給與ス可キ日當旅費止宿料及ヒ第五十一條第五十二條ニ記載シタル者ヲ以テ刑事ノ裁判費用ト爲ス

第四十九條 日當旅費及ヒ止宿料ノ金額左ノ如シ 日當五十錢 旅費一里拾錢 止宿料一宿二十五錢

住居三里以外ノ地ニ在ル者ハ往復旅費ヲ給シ及ヒ呼出ノ地ニ滯在中ハ日當並ニ止宿料ヲ給ス其三里未滿ノ地ニ在ル者ハ旅費止宿料ヲ給セス

第五十條 證人ノ日當旅費及ヒ止宿料ハ本人ノ請求アルニ非サレハ之ヲ給與セス

第五十一條 證人日當ヲ以テ生業トスル者治罪法第九十條ニ從ヒ償金ヲ要求スル時ハ旅費日當ノ外若干ノ償金ヲ給スルコトアル可シ

第五十二條 解剖舍蜜等ノ費用及ヒ數多ノ時間ヲ要スル翻譯料ノ類ハ日當ノ外別ニ之ヲ給與ス可シ

第五十三條 裁判費用ノ宣告ヲ受ケ未タ之ヲ納メサル前ニ於テ犯人身死スル時ハ其相續人ヨリ之ヲ徴收ス

刑罰附則三言角 第五章 賠償處分



ト華氏裁判費用ハ民事上ノ義務ナレハ縦ヒ犯人死スルト雖モ其財  
産上ノ義務ヲ免ル可カラズ其相續人ヨリ之ヲ取立ル

第五章

賠償處分

賠償トハ盜物ヲ徵収補償セシムルヲ云フ凡テ本章モ民事上ノ  
手續ナレハ刑事裁判官便宜ニ依リ取扱フガ故ニ刑法上ニ記載セシ  
モノ  
ナリ

第五十四條 贓物犯人ノ手ニ在ル時ハ直チニ被害者ニ還付スト雖モ若シ轉轉シテ他人ノ手  
ニ在ル時ハ被害者ノ請求ニ因リ還給セシムル者トス

ニ在ル時ハ直チニ盜マレシ主ニ還スト雖モ轉轉トテ廻リ廻リテ他人ノ手ニ在ル時ハ其被盜  
シ者ヨリ請求スルニ非ラサレハ裁判官ヨリ

手ニ在ル時ハ直チニ即現在ノ分ハ直チニ被害者ヘ下付シ他人ノ手ニ在ル時ハ直チニ引揚ル  
ヲ得ス何トナレバ其不正品モ年長ク所有スル時ハ期滿得免ノ權ヲ得ルアリ又被盜主ニ

於テ續カ惜シカラザル品ニシテ却テ之ヲ請求スル爲メ費用ヲ被ルヲ厭フカ  
如キトアリ故ニ被害者ノ請求ヲ待テ追徵還給ノ處分ヲ行フモトトス

第五十五條 贓物轉轉シテ他人ノ手ニ在ル時公商ニ由リ買取シタル物品ハ其公商若クハ被  
害者ヨリ買取者ニ原價ヲ償ハサレハ直チニ還給セシムルヲ得ス

若シ公商ニ由ラスシテ買取シタル物品ハ其還給ヲ拒ムヲ得ス但其買取者ハ賣者ニ對シ  
轉價ヲ求ムルヲ得

轉價ヲ求ムルヲ得 前條ハ贓物現在スル所ヨリ直ニ還給ヲ得ルヲ定メ本條ハ直ニ  
還給スルヲ得サル場合ヲ定ム贓物轉轉シテ他人ノ手ニ在ル時ハ公

商即公ケノ商人例ヘハ古着屋ニ於テ買未メタル衣類ハ縱ヒ盜品ニ歸ルト雖モ其買取主ヨ  
リ直ニ引揚ルヲ得何トナレバ贓ナル商人ヨリ買取タルニ依ル故ニ其賣リタル公商ハ

拜ビニ被盜人ヨリ其買取タル代價ヲ償ハサレハ其品ヲ還シムルヲ得ス若シ公商ニ由ラ  
スシテ買取タル物品不正品タル時ハ追給セラルベシ例ヘハ古道具屋ニ於テ兵服反物ヲ買

取リ古倉屋ニ於テ道具類ヲ買タルカ如キハ之レ公商ニ非ラサルヲ以テ之カ所有主トナ  
ルヲ得ズ然レモ別販賣主ニ對シテ償金ヲ求ムルヲ得レハナリ

第五十六條 贓物ヲ受ケ又ハ典物トシテ受取タル者其贓物現在スル時ハ還給ヲ拒ムヲ得  
又但典物トシテ受取タル者ハ典主ニ對シ轉價ヲ求ムルヲ得

ケ又ハ抵當物等ニ受ケタル者其品現在スル時ハ取揚ヲ拒ムヲ得何トナレバ完ク其  
品ノ所有主ト爲ルヲ得サルニ仍レハナリ然レモ抵當或ハ買物トシテ受取タル者ハ其賣置

主則犯人ナルカ又ハ世話人ナルカ又ハ世話人等ニ對シテ  
償金ヲ求ムルヲ得可シ

第五十七條 贓物交換シテ現在スル時ハ公商ニ由ルト否トヲ區別シ第五十五條ノ例ニ從テ  
處分ス可シ

第五十八條 贓物已ニ費用シタル時又ハ識別ス可カラザル時又ハ其所在ノ知レサル時ハ損  
害ノ賠償ヲ請求スルヲ得

リ先知レサル時ハ其犯人或ハ其親屬ヲ  
當ス可キ者ニ向テ賠償ヲ求ムルヲ得

第五十九條 賠償處分

賠償トハ盜物ヲ徵収補償セシムルヲ云フ凡テ本章モ民事上ノ  
手續ナレハ刑事裁判官便宜ニ依リ取扱フガ故ニ刑法上ニ記載セシ  
モノ  
ナリ

ト華氏裁判費用ハ民事上ノ義務ナレハ縦ヒ犯人死スルト雖モ其財  
産上ノ義務ヲ免ル可カラズ其相續人ヨリ之ヲ取立ル

第五章

賠償處分

賠償トハ盜物ヲ徵収補償セシムルヲ云フ凡テ本章モ民事上ノ  
手續ナレハ刑事裁判官便宜ニ依リ取扱フガ故ニ刑法上ニ記載セシ  
モノ  
ナリ







明治十五年二月廿二日  
同 年四月一日  
同 年八月

出版々權願  
版權免許  
刻成發兌

定價金八拾錢

譯解者

京都府平民

馬場文英

上京區第十一組下塔之段町五百六十九番地  
北喜多野五部同居

京都府平民

寺田熊次郎

下京區第五組梅屋町四百九十六番地  
京都府平民

京都府平民

寺田榮助

下京區第十二組材木町二百六番地  
京都府平民

本城小兵衛

下京區第十一組中之町  
同區同組京極町

川勝徳次郎

發賣人

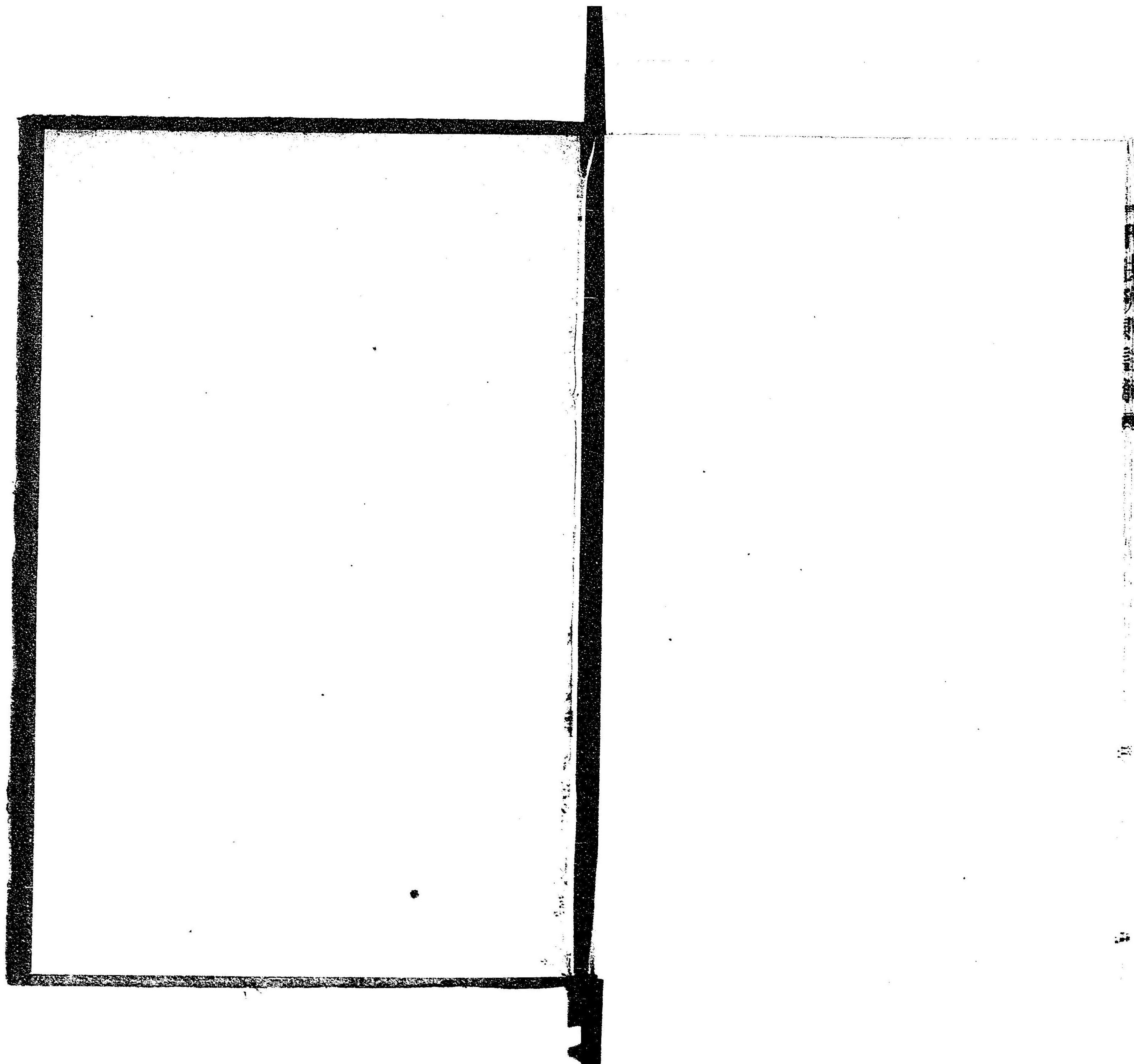
發賣人

出版人

出版人

出版人







東 京 圖 書 館

新 門 四 五 函

部 一 一 架 一 一

類 號



035954-000-2

特30-57

刑法訳解治罪法傍訓

馬場 文英/著

M15

BBP-0553

